公益財団法人 日本ハンドボール協会編　平成27年4月1日発行（毎月1回1日発行）通巻550号

ハンドボール

MAR. APR. 2015 No.550

特集
第23回 JOCジュニアオリンピックカップ2014
平成27年度日本協会事業計画
機関誌550号発行に寄せて

［表紙写真］第23回JOCジュニアオリンピックカップ2014、女子MVP・茨城県の齊藤詩織（左）、男子MVP・愛知県の石黒理久（右）

公益財団法人 日本ハンドボール協会
http://www.handball.or.jp/

販売から賃貸管理までトータルサポート

私達、株式会社ユリカコーポレーションは、女子ハンドボールを応援しています!!

私たち株式会社ユリカコーポレーションは、お客様方の将来設計において、不動産を用いた資産づくり・将来的な安定収入を得ていただくご提案をさせていただいております。

創業以来、多くのお客様に支えられ今日に至りました。

心より感謝申し上げます。

YURIKA ROSE

2015年のスタートとしまして、自社ブランド『 YURIKA ROSE (ユリカ ロゼ)シリーズ第二弾『ユリカロゼ東京イースト』の販売を開始致しました。

東京スカイツリーや隅田川の花火など、眺望の良い立地！

年明け早々、とても評判の良い物件となっております。

http://yurika-co.jp/

株式会社ユリカコーポレーション

〒101-0041 東京都千代田区神田須田町2-6-2 神田セントラルプラザ1202

TEL：03-3525-8986 / FAX：03-5295-8188

リオデジャネイロオリンピック アジア予選を見据えて

公益財団法人 日本ハンドボール協会会長　**渡邉 佳英**

日頃より日本ハンドボール協会の事業にご理解とご協力を賜り、心から感謝申し上げます。

今年度は、10月に愛知県で女子、11月にカタールのドーハで男子のリオデジャネイロオリンピックアジア予選が開催されます。是が非でもリオデジャネイロオリンピックの出場権が獲得できるよう代表チームを鍛え上げていきます。また代表チームの強化と並行して2019年、2020年に向けた強化活動も推進していきます。さらにハンドボール競技の注目度アップ、競技人口アップ等に向け以下の内容について役員一丸となって活動を続けていきます。

強化については、リオデジャネイロオリンピック出場権獲得に向かって、更なる強化に努めます。さらに2019年世界選手権、2020年東京オリンピック世代に特化した強化活動を推進していくと同時にナショナルトレーニングシステム（NTS）の徹底により、指導方法の共有化と世界で通用できる選手を発掘育成します。

審判については、国際レフェリーの育成と増員を目指します。また、トップレフェリーの充実、若手トップレフェリーの育成、レフェリー人口の拡大に努めます。

競技については、女子のリオデジャネイロオリンピックアジア予選と今年度から開催する日本選手権大会を成功させるべく競技大会運営に取り組みます。また、国内競技大会の充実と大会スケジュールの変更の具体化にも取り組みます。

指導普及については、「普及活動事業」と「指導者育成事業」を２本柱とし、チーム数ならびに競技人口の拡大、国際感覚を持ったトップ指導者の育成等を強力に推進します。

マーケティングについては、日本協会の収入源の大きな柱と捉え、既存スポンサーの継続、新規スポンサーの獲得を目指します。また、新たなマーケティング活動についても取り組みます。

国際については、IHF・AHF他EHFの動き・施策に対し、「アジア地域の発展」をベースに迅速な対応を展開し、2019年、2020年にかかる様々な国際的交流にも対応していきます。継続して次世代の国際担当者の育成に取り組みます。

広報については、現状活動の分析・見直しを行い、変化に対応した広報活動を行うことにより、ハンドボールの注目度アップを目指します。

財務については、強化活動の充実や国際大会出場の増加等支出増に備え、支出の削減に取り組み、計画的な予算執行を行います。また、2019年、2020年に向けた強化活動に伴う資金捻出に取り組みます。

総合企画については、日本ハンドボール協会の短期・中期事業計画の立案や各事業部、プロジェクトの活動を統合・調整・推進します。

総務については、日本協会全体のガバナンスとコンプライアンスの徹底を図り、事務局業務の充実に取り組みます。

日本リーグについては、日本のトップゲームを沢山の人々に披露し、新規加入チームの拡大、チャレンジ・ディビジョンチームの参加拡大等リーグの充実に取り組みます。

がんばれ20万人会は、「ハンドボール界総力をあげて日本代表を応援する」「20万人を達成することによるハンドボールのバリューアップ」の２大目的を踏まえ、各都道府県協会と協力し会員数増加を図ります。

以上、今年度も皆様の幅広いご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

日本男子監督に 岩本真典氏 （現 大崎電気監督） が新たに就任！

「TEAM・JAPAN」で戦い抜く

昨年の秋から空席となっていた男子日本代表監督に、日本リーグで男子通算最多得点記録（1079得点）を持つ元日本代表の岩本真典氏の起用が決まった。代表監督の選考に当たっては、日本リーグのトップクラスの監督からの選考が相応しいとして検討を重ねてきたが、現役時代の卓越した実績や、今季の日本リーグ14戦全勝（2月24日現在）で首位を走る大崎電気の指揮官としての手腕を活かし、1988年ソウルオリンピック出場以来28年振りとなるリオデジャネイロ五輪出場を目指す。

2月23日に行われた記者会見の中で岩本新監督は、先ず一番に、「魅力ある日本代表」、一般のファンからも「憧れるような日本代表」チームを創りたいと発言があり「TEAM・JAPAN」を掲げた。TEAMとは、T：think 考える、E：evolution　進化、A：action　行動、M：mind　世界と戦う精神力であり、TEAM・JAPANで戦うことは大和魂にも通じると語った。更に、松井前監督の「早くて速いハンドボール」を継承し、リオ五輪出場を果たしたいと力強い発言があったが、具体的なスタッフ選びや、選手選考はこれからであるとした。取り分け、選手選びでは、日本リーグ以外に欧州で活躍中の選手なども選択肢の一つとして考えたいとしたが、本格始動は男子プレーオフ終了後の4月からとなるとした。

■岩本真典プロフィール
大崎電気監督
1970年9月28日生（44歳）熊本県出身
熊本市立商業高等学校→早稲田大学→三陽商会→大崎電気
選手としての記録　'95､'97､'05 世界選手権出場
日本ハンドボールリーグ男子個人通算最多得点（1079点）

監督としての記録	全日本社会人選手権	優勝2回
	国民体育大会	優勝3回
	全日本総合選手権	優勝3回
	日本リーグ	優勝1回

機関誌「ハンドボール」550号発行に寄せて

機関誌専門委員長　**近久紀人**

機関誌「ハンドボール」は、昭和35年6月5日に第1号を発行以来55年の長きに亘る月日を経て、今般平成27年3・4月合併号にて550号の発行を迎えることになりました。この間機関誌の発行に多大なるご支援、ご協力を戴きました関係各位に、誌面をお借りして厚く御礼申し上げます。

“初心忘れるべからず”昭和35年の第1号巻頭言には、当時の日本協会式場会長が「この雑誌を通じてハンドボールのよさを大いに普及して貰いたい」と述べられ、以降、紆余曲折はありましたが、今日まで続けて発行できていることに特別な感慨があります。機関誌は、日本協会自らが発行しており主たる目的は協会組織内の広報・情宣にありますが、ハンドボールを愛する一般のファンや愛好家も読者の一人であるとの認識のもと、組織外の方にも広く読まれることを期待しています。現状年間8回の発行、一回当たり約5000部の発行部数で推移していますが、一冊の機関誌が指導者・監督はもとより、学校内、チーム内のメンバーなど横への展開へと繋がり、様々なご意見を戴けることも期待しております。昨今では、web化の進展により、各NF（競技団体）はHP（ホームページ）に相当の力を置いた施策を図っていますが、機関誌の持つ「一覧性」「保存性」はwebにはない特性を有しており、機関誌発行との両面を維持しているNFも多く見受けられます。今後も600号（2020年東京オリンピック開催の頃)、650号と発行を継続できるよう機関誌編集体制の充実なども図る所存です。只、機関誌の現状を俯瞰すれば掲載記事の内容の向上が必要ではと考えております。日本協会主催の各種大会の報告記事はそれ自体が過去の出来事であり、又大会ごとの特徴にも配慮していますが、長年のマンネリ感は払拭できていません。掲載内容の質的向上には、協会全体がこれから将来に向かい具体的に何を展開するのか、各種の課題をどのように解決していくのか、これらの道筋が語られていく必要があります。日本協会内部の各本部、各委員会の動きや動向など、機関誌を通じてアピールする姿勢が見えてこないことが大変残念です。幹の無い枝葉の掲載内容との批判もよく耳にしますが、情報発信と将来ビジョンが満載となり、読み終わった後に気分が高揚するような機関誌を標榜しておりますので是非とも掲載記事への注目をお願いいたします。

今回の550号発行にあたり、機関誌の歴代編集長及び東京運動記者クラブ・ハンドボール部会の各記者から寄稿頂きました。ご協力戴きました各位には感謝と御礼を申し上げます。

550冊への懐かしさと600号への注文と……

杉山　茂
スポーツプロデューサー（元機関誌編集委員）

機関誌をめぐって500号記念(2009年5月)からこの6年間・50号の積み重ねの間に嬉しいこと、悲しいことが1つずつあった。

前者は、創刊号（1960年5月）からバックナンバー全冊の電子ファイル（PDF）化だ。

日本協会ホームページ・情報公開の一環に組み込まれたものだが手間のかかる作業、スタッフの情熱がなければ生まれない。せいぜい“合本”ぐらいしか思い浮かばなかった私には、驚きもあった。

現時点で収録されている516号（2011年1～2月）までを一気に読み返したが、書棚から1号々々取り出すのとは別の感慨にふけることが出来た。5人ほどのオールドタイマーから連絡があり懐かしさに話もはずんだ。

日々進化をとげるハンドボールの世界。“古い時代”への関心、興味の度合いは分からぬが、その時々の競技者、愛好者の歩み、チーム、協会、連盟などの動きは、確実に「今」へつながっている。それは日本のハンドボールの厚さ、深さを示すものだ。PDF化は貴重な歴史を身近なものにもしてくれている。

悲しいできごとは、機関誌発展の大功労者、藤本強氏（東大OB）の逝去―2010年9月10日―である。

素晴らしい人だった。日本を代表する考古学者、先史学者、母校の文学部長をつとめられた有数の文化人。ハンドボール界では審判・競技規則分野の国際派として活動され、語学力、文筆力を活かした情報展開、マスコミ対応にも随所で優れた見識を発揮、機関誌編集委員会の初の本格的な“代表者”に推された。

年4回からしだいに発行回数が拡充、年11回となった1965年1月から、ほぼ毎月1回、印刷所の校正室で私は藤本氏と会い、2人だけのささやかな「編集会議」をつづけ、時には熱っぽい球界・協会論をかわして時間が経つのを忘れた。

日本協会の進もうとする道を“読みもの”としてどう伝えるか。愛好者（読者）の求める情報とは何か。藤本氏の答えとアイディアはつねに新鮮で、ハンドボール愛にあふれていた。話し合いの結果を次号に反映させるために準備を整え、原稿を書きあった時代は何年つづいたろう。

藤本氏他界の悲報は研究旅行さきのドイツから届いた。73歳の若さ。信じたくないまま年月が流れたが、いま「550号」を語り合えぬ現実と向かい合い、寂しさに胸をしめつけられる。

■OBマスコミ人の協力でスタート

ものごとの始まりは、意外にも小さいきっかけである。この機関誌発刊もそうだ。

1959年暮れ、在京のハンドボール担当マスコミ人と日本協

会役員の懇親会でハンドボールの露出不足が話題となり、その道に入って間もない私は「日本協会のPRの拙さ、広報体制不備が一因…」とからんだ。

同席されていた立教大学OBで競技者としても実績豊かなデイリースポーツ（東京）の小川励行さんが応援の発言をして下さり、スポーツ用品業界紙社長の宮澤宏之さんが「広報誌を出せばいい。記事が集まるなら刊行業務は引き受ける」と言われた。その場の雰囲気から「原稿はいくらでも書きますよ」と言ってしまい、一気に走り出した。

私に自信があるわけではなかったが、時も味方してくれた。前年の世界男子選手権（11人制）で準優勝したルーマニア代表の来日シリーズ、東京オリンピック（1964年）の採否問題、11人制退潮の兆（きざし）などトピックが並んでいたのだ。

小川さんはもちろんのこと東京には慶大OBの増田一郎さん（TBS報道部）、関西には関学で鳴らした渡辺一巳さん（デイリースポーツ）、早大OBの隅田正彦さん（スポーツニッポン）らが居られ、この機を待っていたかのように筆をとって下さった。そのかたたちのルートでハンドボール出身者以外のジャーナリストにも声をかけ、実名、ペンネームあわせて多彩な原稿が次々と寄せられもした。

懇親会がなければ、刊行は遅れただろうし東西OBによる第一線の書き手が揃う機会を逸していたかもしれない。女子の愛知紡績（7人制）に始まった実業団時代の訪れが告げられたのも追風になる。ニュースの幅が広くなったのだ。

ハンドボール情報に飢えていた愛好者の反応も良く、発行日を待ってくださる人が増える。

日本協会への動向にも注目が集まり、機関誌らしくなるが、多忙なジャーナリストに、いかにOBとはいえ全国会議（評議員会、理事会）や各部、各委員会の取材をお願いするわけにもいかない。藤本氏と相談、各会議の報告文をもとにリライトすることにしたが、集まりが遅いうえ、単なる箇条書きが多く、内容の充実につながらない。時間が許すかぎり我々が出席させてもらう方法をとり、かなり濃い情報を送り出せるようになったが、しだいに“取材”は敬遠される。発表したくない事項が表面にさらされてしまうからである。

こんなこともあった。登録料の増額の理由や背景を書く。すると、会議ではそうした説明はなかったと苦情を寄せる役員が出てくる。地方や組織へ戻り会議の報告をしたが、機関誌の記事のほうが詳しく、自分の面目がつぶれたという人もいた。「任意団体」時代のハンドボール界の“若さ”でもあったが、藤本氏と私は突っぱねてきた。組織、体制としての姿勢を全国に丁寧に知らせぬ機関誌などないのだ。嬉しいことに、役員からも読むのが楽しい原稿が集まりはじめる。

■各事業のアピールへ活用を期待

55年間、550号。歴代編集委員の皆さんの熱意に感謝のほかない。だが、一読者として機関誌を手にとったとき、毎号いくつかの注文が浮かぶ。

その一つは記録性、資料性だ。ホームページが機能し、速報力を高めている現代だが、ハンドボール界の貴重な活字メディアとして、これからも機関誌の果たすべき役割は大きい。特に「日本代表」のデータはスコアだけで留まるものではない。

私のチェックでは、昨秋の仁川アジア大会で男子は公式国際戦600回、女子は同400回、男女合わせて1000回に達した。「それがどうした？」という人も居るだろうし、この記録を数字遊びだと通り過ぎる人も居るだろう。私は、そうは思わない。知らなかった人が圧倒的に多かったのではないか。それに気づかせ、特集を組んで日本ハンドボール史の一こまへ誘いこむのは機関誌に託された力だろう。

いつの頃からか、日本代表のスコアに付された出場メンバーからGKと得点をマークしなかった選手の名が省略されている。乱暴すぎる編集だ。スタッフからの原稿がそうなっていたとすれば、それを補充して資料の完璧を図るのが編集委員会である。ゴールを守り抜く選手の姿、ディフェンスやアシストで貢献した選手に誰も想いをはせないのか。

ホームページに公式スコアシートが掲示されているから、と言うなら、自らの使命の終焉を早めるだけだ。

549号で「全日本総合から日本選手権へ」がミニ特集されていた。この企画、2年前にスタートしていれば読者を通じ新しい大会へ“全国の関心”を煽れたろう。誌上に大小の意見を集めつづければ、地域の関係者、愛好者・競技者の戸惑いのなかで開幕年を迎えることはなかった。

日本協会の事業はシーズン（年度）ごとにふくらみつづけているようだ。それを乗り切るため各セクションの専門化、細分化は避けられぬとして“タテ割り”を助長するなら、健全な運営には結びつかない。各部、各委員会は機関誌を最大限に活用してその活動をリポートあるいはアピールし、多様の意見を募ったらいい。外部者からの提言を積極的に求めるべきだ。

現代のスポーツは、総て組織あげての姿勢を欠いて成果は見込めない。ハンドボール界に、その意識がどれほど浸透しているか。今後の各号から日本協会の姿が読みとれるのを期待していよう——。

550号に寄せて

萱津　節
読売新聞本社編集局運動部次長

スポーツ記者2年目の1997年、熊本で行われた男子世界選手権を取材したことは、私とハンドボールのかかわりの中で、鮮烈な記憶として、今も脳裏に残っている。

日本代表は、オレ・オルソン監督のもと、1日6回の食事で体重を増やす一方、それに見合うハードなトレーニングを積み、当たり負けしない体を作って世界の強豪に対抗した。本番ではアルジェリアとサウジアラビアに勝利して、予選ラウンドを突破。決勝トーナメントでも、1回戦で敗れたとは言え、前回大

会王者のフランスに一時は５点リードを奪うなど、１点差の接戦を繰り広げたオルソン・ジャパンの雄姿を目の当たりにした。

まだ記者として経験が少なかった身にとっては、ハンドボールに限らず、その後スポーツ取材を重ねて行く上で、貴重な現場体験だった。翌年２月には、長野で開かれた冬季五輪を取材することになったが、国内で行われた世界大会を事前に経験できたことが生かされたと感じている。

2008年１月には、アジアでの不公平な判定を巡る「中東の笛」問題に端を発し、東京・代々木体育館で行われた北京五輪男子のアジア予選やり直しの試合にも足を運んだ。

年末から異様なまでの盛り上がりを見せた騒動の末の韓国戦は恐らく熊本世界選手権を上回り、史上最も日本ハンドボールが世間から注目された一戦だった。当時の熱狂は７年経った今でも忘れることができない。

最後は韓国に３点及ばず敗れたが、不正とは無縁の真っ向勝負は感動的だった。酒巻清治監督を初め、宮﨑大輔や末松誠ら選手たちも、満員の観客の大声援を受けて、魂のこもった試合を展開。やり直し予選の実現に奔走した蒲生晴明総監督が後に「選手たちは､以前の試合では不正があり『やっぱりな』と思っていた。でも今回は全員の目が輝いていた」と、感慨を語っていたことも印象的だった。

サッカーの日本代表や野球の侍ジャパンなど、日の丸を身に着けて戦う代表チームの躍動が、国民の心に熱狂と感動を呼び込むということは、競技の枠を超えた共通点だ。まして、それが国内での大会ともなれば、人々に与えるインパクトは倍増する。

開幕まであと５年余りとなった2020年東京五輪では、開催国として、男女の日本代表は予選免除で出場権が与えられることになる。男子は1988年ソウル大会を最後に五輪から遠ざかり、女子は1976年のモントリオール大会が唯一の五輪出場。それだけに、将来の代表の強化や競技の普及を左右する貴重な機会となることは疑いないと思う。

特に女子は前年に熊本で開催される世界選手権からの、大きなムーブメントを作って盛り上げていける可能性を秘めている。五輪本番では他競技と平行して試合が行われるだけに、世界選手権でどれだけ日本代表に注目を集める戦いができるかどうか、代表監督や選手個人の名前をどれだけ世に浸透させることができるかが、ポイントとなるのではないだろうか。

現在はまだ低いと言わざるを得ない「おりひめジャパン」の知名度を上げるために、チームの強化だけでなく、広報活動も戦略的に展開していく必要があると感じている。幸い、来年のリオデジャネイロ五輪のアジア予選が今年10月に名古屋で予定されている。目の前の五輪切符だけではなく、５年後に向けた、大事な一歩となるだろう。

一方、男子はやり直し予選の後、世界との差がじわじわと広がってしまった。昨年、アジア選手権、アジア大会でともに９位に沈み、この１年間で代表監督が２度も交代するという、通常では考えられない事態に至ってしまったことは、残念でならない。岩本真典新監督で臨む、カタール・ドーハで11月に行われるリオ五輪アジア予選も、突破するためには並々ならぬ覚悟でのチーム作りが求められるだろう。

岩本監督は、熊本世界選手権での日本代表の躍進と会場の盛り上がりを、コート上で体験している。世界を相手に勝つまでの過程の苦しさと、勝利をつかんだ喜びを知っている。新しい熱い風を、代表チームに吹き込んでほしい。

楽観できない 最低条件は「戦えること」

宝田 将志
産経新聞運動部

日本協会機関誌「ハンドボール」発刊550号、おめでとうございます。創刊号は昭和35年だそうです。誌齢は55。新聞社でその年齢は、もう管理職で、取材現場にいる記者はごく稀です。貴誌の変わらぬ仕事ぶりに敬意を禁じ得ません。

ここで本来なら、2020年東京五輪に向けて景気の良い話題でも書ければいいのでしょう。私自身、早稲田大学体育会でハンドをしていたので、競技へ愛着も愛情もあります。しかし、実際に様々な五輪競技を取材していると、そう楽観できないのが率直な所です。むしろ状況は、かなり厳しいのではないかと感じています。

まず、男子代表が勝てないという事実。ご承知の通り、昨秋の仁川アジア大会は９位でした。大会取材班の一員として現地にいましたが、陸上と体操も担当なので、ハンド会場ばかり行けません。「決勝くらいは」と考えていたところ、その前に負けてしまいました。日本選手団はメダル200、入賞341。この中で紙幅を取れる成績だろうか。最終の中国戦の出稿の際、デスクと行数を巡るやり取りがありました。「できるだけ多めに」と思いましたが、通る訳もなく。悲しいところです。

今は、フェイスブックやツイッターといったSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）でハンドの情報を入手しやすい時代になりました。情報量も増え、海外のことも分かります。歓迎すべき状況です。ただ、SNSは身の回りに「知りたい情報」を増やせるため、逆に錯覚を起しやすい。つまりハンドの話題にばかり囲まれていると、「ハンドボール」の社会での立ち位置、実際の大きさが分かりにくくなってしまいます。SNSが普及した現在だからこそ、業界を相対化する視点がより重要だと考えます。

代表監督問題を例にとれば、サッカー男子は候補者などが大量に報じられ、サッカー未経験者でもアギーレの後任選びが話題になっていることくらいは知っています。対して、ハンド男子は、ほぼ目にしませんでした。両者の市場の違いは一夕一朝で埋まるものでなく、嘆いても仕方ないですが、この注目度の違いが現実です。この春、どの部活を選ぶか迷っている中学の新入生はサッカーを選ぶか、ハンドを選ぶか。ハンドをやっている子は高校、大学と続けていくか。いろんなことを考えさせられます。

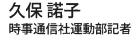
東京五輪の決定を契機に「タレント発掘」という言葉を頻繁に耳にするようになりました。少子化が進む反面、各競技・種目による「若い才能」の争奪戦は激しさを増しています。他の競技団体も目標を見据えて着実に歩を進めています。ラグビーは日本開催の2019年ワールドカップに向けて強化を図り、世界ランクを上昇させています。バスケットボールも国際連盟から迫られる形ですが、リーグの統合など改革に取りかかっています。魅力あるトップリーグが形成される可能性は十分あるでしょう。大きくて速くて強い子は、ますますハンドボールを握る機会が減ってしまうのではないか…。人材の供給が先細れば、帰化選手が増える中東諸国に勝つことが一層、困難になることは明白です。東京五輪までの5年間で、この「負の流れ」が確定してしまうのではないか、と危惧するのは悲観的すぎるでしょうか。

また、東京五輪には開催国だからといって無条件で出場できる訳ではありません。予選方式を決めるのは国際連盟で、例えば、04年アテネ五輪ではギリシャのホッケー男子が出場できていません。低レベルのチームが五輪に出場することで得失点差の不公平が生じるため、国際連盟は「プレーオフの勝利」を出場の条件に科しましたが、クリアできませんでした。

今後のハンド界の発展を考えた時、やはり、東京五輪で「戦えること」は最低条件です。「みんなで一丸となって」は当然なのですが、これは国内を統括する日本協会の危機感と舵取りの問題だと個人的には捉えています。

ハンドを知らない人に「何人でやる競技ですか？」と聞かれたことは一度や二度ではありません。この機に、愛すべき競技の露出をどうにか増やしていきたいものです。

2020年東京五輪へ飛躍を期待

久保 諾子
時事通信社運動部記者

550号発刊おめでとうございます。2013年度よりハンドボール競技の担当になり、昨年は仁川アジア大会などを取材させていただきました。アジア大会では男女とも最後の試合を笑顔で終えることはできませんでしたが、取材をしていて、国際大会で得られる課題と収穫の重さを感じさせられた貴重な機会になりました。

決勝に進んだ女子の相手は韓国。言うまでもなく、日本が五輪や世界選手権の出場権を懸けて戦う際には必ず前に立ちはだかる国です。試合は韓国が体格やスピードで優位に立ち、序盤に主導権を握ったことに加えて、本拠地の熱気にも押された一戦になりました。試合後に「これが今の力。アジア予選に向けて、一からまたチームをつくっていきたい」と話して涙を拭った日本の選手たち。16年のリオデジャネイロ五輪予選が始まる今年は、その生まれ変わった姿を見せてくれると期待しています。

また、残念ながら9位にとどまった男子についても、得たものは大きかったと感じます。目指していた結果には届かなかったものの、貴重な実戦を通じて、今後日本が世界と戦う際に必要なもの、補わなければならないものを改めて示されたと思います。大会前に強化合宿中の松井幸嗣前監督を取材した際、「選手たちが自分の役割を一人一人がしっかりと理解して、どんな試合でも自信を持ってプレーできるようにしてやりたい」とおっしゃっていたことが印象に残っています。国際大会ではアジア選手権、アジア大会と苦戦が続いていますが、選手たちはこの経験を新しいチームにも是非つなげてほしいです。

さて、20年東京五輪・パラリンピックの開催が決まり、日本オリンピック委員会（JOC）は目標として「世界3位の金メダル獲得数と全競技入賞（8位以内）」を掲げています。これを達成するには、ハンドボールを含めた団体球技の飛躍が欠かせません。ハンドボール競技は女子が初実施の1976年モントリオール大会、男子は88年ソウル大会以降、出場から遠ざかっています。伝統のある国内大会が多いことに加えて、地方に競技者が多いこともあり、ナショナルチームとしての強化が難しい状況もあるようですが、是非とも各年代層や所属が連携し、さらに統一された強い代表づくりを進めてほしいと思います。20年五輪に向けては、有望な高校生の選手たちが日本代表と同じ場所で合宿を行ったり、代表合宿に若い選手が参加したりするなど、近い将来に的を絞った強化が始まっています。その様子を一部ですが拝見し、この若い力が代表にうまく融合すればと期待をしています。

特に女子は前年の19年に世界選手権の日本開催が決定。ここから数年は代表選手たちがレベルの高い大会を多く経験できるだけでなく、国内外からの注目が集まり、新たな競技者やファン獲得のチャンスの時期となることは間違いありません。東京五輪に向けた強化というだけでなく、世界選手権と五輪を含めて、その後に続く日本のハンドボールのステップアップの機会にしてほしいと思います。

男子も、アジア大会後から空席になっていた代表監督が決まり、2月末に発表がありました。岩本真典新監督は就任会見で精神面の強化の重要性を語り、その際に挙げたのが1996年から2年間代表を率いたオレ・オルソン元監督（スウェーデン）の教えでした。日本のハンドボール初の外国人監督となり、徹底したフィジカル強化を図って1997年男子世界選手権で日本をベスト16に導かれた同氏ですが、メンタル面でも戦う気持ちを持ち続けることを熱心に説かれたそうです。岩本監督が「気持ちがないと試合には勝てない。メンタル面など、フィジカルを補う技術、戦術を指導していきたい」と表明されたように、心身ともにたくましくなった日本代表の姿を実現させてほしいです。

日本のスポーツ界が大きな変革を迎えるであろう今後5年間、日本のハンドボールも20年東京五輪、そしてその後につながる発展を遂げられるよう期待しています。大舞台で選手たちが活躍する姿を取材できる日を楽しみにしています。

第23回
JOCジュニアオリンピックカップ2014ハンドボール大会

開催期日：平成26年12月25日㈭～28日㈰
会　　場：県営あづま総合体育館・福島市国体記念体育館

大会を振り返り

大会事務局長　**長谷川賢治**

福島県開催最終年度となる第23回JOCジュニアオリンピックカップハンドボール大会が、12月24日（水）～28日（日）までの5日間、県営あづま総合体育館をメインに福島市国体記念体育館とともに開催されました。この大会は、全国47都道府県が選抜チームを編成し、予選であるブロック大会を勝ち抜いて出場する大会であるため、高い実力を備えながらも、所属する単独チームでは全国大会に出場できなかった選手が、全国大会に出場するチャンスとなる大会です。今年度は、女子山梨県選抜が初出場を果たしたことで、昨年よりさらに出場経験チームが増えました。また、この大会は『将来、オリンピックや世界選手権大会等において、日本代表選手として活躍する可能性のあるジュニア選手の発掘と育成』を目的としており、オリンピック有望選手として選出された部井久アダム勇樹（福岡県選抜）選手をはじめ、各都道府県を代表する、身体能力が高く、戦術理解に優れた選手が活躍する、レベルの高い大会となりました。

開会式では、（公財）日本ハンドボール協会専務理事川上憲太様から、2020年東京オリンピックや世界大会で、日本代表として活躍する選手になってほしいという期待が込められたご挨拶をいただきました。また、アトランタオリンピックに出場し、現在サッカーU-18日本女子代表監督で、AFC年間優秀監督賞を受賞された高倉麻子様の「励ましの言葉（講話）」では、ご自身の経験をもとに、日本代表としての取り組みや気持ちの持ち方について具体的に話していただきました。

大会は、男女ともに3チームずつ8ブロックに分けられた予選リーグを行い、各ブロックの1位が決勝トーナメントに進出する方式で行われました。予選48試合では、前半リードされた状態からの逆転勝利が4試合と少なく、前半を好スタートし主導権を握ったチームが、後半も引き離すという試合展開が多くありました。決勝トーナメントでも、決勝まで全14試合のうち、後半の逆転勝利が1試合のみでしたが、後半追い上げ、接戦となる試合が多く見られました。リードされても大きく崩れることもなく、相手チームを分析し、ねばり強くDFしているチームが、最後に勝利をつかみとる印象を受けました。

女子決勝戦は、全中優勝の港川中と準優勝の神森中を主体とした沖縄県選抜を接戦ではねのけた茨城県選抜と、春中優勝、全中3位の平田中に個人能力の高い選手を補強した山口県選抜というカードになりました。1対1の強さやPVとの連携で得点を重ねる山口県選抜に、堅いDFから速攻につなげた茨城県選抜が22対21で勝利し、初優勝を飾りました。

男子決勝戦は、全中出場の滝ノ水中を中心とした愛知県選抜と、クラブチームであるヴァルト岐阜をベースにした岐阜県選抜の、東海ブロックどうしの対戦となりました。この両チームは、大会までの期間、決勝で対戦することを目標に、練習試合を何度も重ねていた経緯もあり、試合前、コート上に両チームが集まり、最高のパフォーマンスをしようと誓い合う場面も見られました。そして、お互いのチームの良さを発揮し、素晴らしいプレイで会場を湧かせました。結果としては、28対26で愛知県選抜が勝利し、10年ぶり5回目の優勝を果たしました。会場は、両チームの健闘をたたえる拍手につつまれ、3年間続いた福島県開催の幕を閉じました。

最後になりましたが、福島県で開催するにあたり、多大なるお力添えをいただきました（公財）日本ハンドボール協会をはじめ、各ブロック、各チーム関係者の皆様、審判員の皆様に、改めて厚く御礼を申し上げるとともに、来年度から開催される沖縄県大会の大成功を祈念し、大会報告といたします。3年間本当にありがとうございました。

男子
優勝

愛知県選抜

愛知県選抜男子チーム監督　深見忠司

この度は、第23回JOCジュニアオリンピックカップにおいて優勝することができ大変嬉しく思います。これもひとえに、ご支援、ご協力いただいた保護者の方々、愛知県協会、名古屋市協会、中体連、高体連の先生方のおかげであると深く感謝しております。

選抜チームは9月、過去の先輩たちが成し遂げた「日本一」を目標に活動が開始されましたが、中学生が3号球を使用するという大きな問題がありました。昨年度も選抜チームの監督をしましたが、手探りで指導をしなければならず、肘や肩に負担がかかり、肘や肩を痛めてしまう選手がどうしても出てしまいました。1号球から2号球になり、その2年半後には3号球になるという身体的に大きく成長する中学生には、とても負担になりました。

そのため、前年度の指導の経験を生かしたり、他県の指導者と情報交換をしたりと、選手の負担にならないように練習環境を整えました。まずは「3号球を投げすぎない！」を徹底させました。スタッフと検討し、練習内容によってボールの使用を変えたり、シュートフォームを負担が少なくなるように変更したりと工夫し練習を進めていきました。その結果、けがをすることはなくなりましたが、最終的に3号球を上手に扱えるまでには至りませんでした。このジュニア世代で「細かい技術を身につけることが必要！」だと感じている指導者からすると、3号球の使用は、ジュニア世代の技術獲得の課題としてとても大きな問題になっていると感じています。さらに、3号球を使用しロングシュートやミドルシュートを打てる大型選手がいなかったため、「組織で戦う！」をチームのスローガンとして取り組みました。練習の最初に戦術理解や練習の意図、目的、個々の役割などを理解させ、チームで戦うことの意識を徹底させました。その練習の成果が出てきたのが12月を過ぎてからでしたが、ようやく高校生とも戦えるチームとなってきたことに手応えを感じながら大会に入りました。

大会に入ると、保護者の方々のまとまりのある応援を追い風に、その思いを受け取った選手たちが、どの試合でも愛知選抜の長所、「守って速攻！」ができたと思います。予選の福井戦、埼玉戦から、夏の全国大会優勝の京都戦、春の全国大会優勝の山口戦、そしてクラブ日本一の岐阜県選抜の決勝戦まで相手の攻撃を組織で守り、最後まで諦めずに足を動かすことができた選手たちが、試合の中で成長していく姿が見られたことがとても嬉しかったです。

最後の決勝戦、練習試合を何度も繰り返し、ともに決勝戦で戦おうと約束をした岐阜県選抜の選手たちと、一緒にウォーミングアップをし、試合前に一緒に円陣を組み、両監督から福島県の最後の試合を最高のものにしようと、その思いを受け取った選手たちは、とても素晴らしい試合を見せてくれました。特に、岐阜選抜2番の山崎洸平くんの活躍は、1試合で16得点するという将来の可能性が感じられるものでした。また、両チームの選手たちの最後まで諦めずに足を動かしたDF、絶対に1点を取るというOF、そして絶対に優勝するぞ！というスタッフも含めた全員の気持ち、そのすべてが表れた最高の試合をすることができたことを誇りに思います。

最後になりましたが、「とどけよう　スポーツの力を東北へ」のスローガンのもとで3年間、この大会の開催にご尽力いただいた、福島県ハンドボール協会を中心とする関係機関、関係各位の皆様に、最高の舞台でハンドボールをやらせていただき、感謝いたします。本当にありがとうございました。

愛知県選抜主将　高橋憲申

「5、4、3、2、1、ピーッ」と決勝の試合終了のホイッスルが鳴った瞬間、僕たちは涙があふれてきました。今までこの仲間と一緒にハンドボールができたこと、お互いに切磋琢磨し頑張ってやってきたことが本当に良かったなと心から思いました。JOCの練習初日、「キャプテンはお前でいく」と言われた時、とても不安になりました。身長や力がない自分に3号球で練習をしていく中で、チームをまとめていけるのか不安でした。しかし、仲間はそんな自分を支えてくれました。そして、お互いの細かい成長を必ず見つけてほめ合う素晴らしい仲間、良きライバル。チームのモチベーションも練習を重ねるたびにますます上がっていきました。今年の僕たち愛知選抜は何より身長が低いので、深見監督は練習初日に「身長がないなら、足で走って勝つ！」と、機動力と組織力を目標にかかげました。そのため毎週のDFフットワーク練習をやることで、全国のどのチームよりも絶対に足は動くと自信がつきました。そして、僕たち愛知選抜が強くなれたのは、岐阜選抜とJOCの卒業生の存在があります。岐阜選抜とは何度も練習試合をし、卒業生の方々は毎週のように練習に来てくださいました。それから忘れてはいけないのは、JOCではないけれど自ら練習に参加したいと言って共に高め合ってきた17人目の仲間がいたことです。協力していただいたすべての方の思いを背負って、福島へと出発しました。

1回戦福井選抜、緊張しましたが、とにかく今までやってきたDFだと集中した結果、最高の試合内容で勝利することができました。2回戦埼玉選抜、3回戦全中優勝校率いる京都選抜、立ち

上がりこそ苦しみましたが、後半からは自分たちのペースにもっていけました。準決勝春中優勝校率いる山口選抜、延長戦までもつれましたが、最後まで粘りました。そして決勝岐阜選抜、共に高め合ってきたチームです。試合前に両チームで円陣を組み、最高の試合にしようと約束し試合に臨みました。そして最高の試合と最高の結果に…一生忘れることができない素晴らしい試合でした。

このような最高のチームにして下さった監督、コーチ、また愛知選抜を支えて下さった先生方、保護者、卒業生、17人目のチームメイト、練習環境を整えるために体育館を貸してくださった方々、愛知県の全ての皆さん、そして福島県の方々に感謝したいです。本当にありがとうございました。

女子優勝 茨城県選抜

茨城県選抜女子チーム監督　中里　薫

このたび、茨城県選抜女子ハンドボールチームは、大会23年の歴史の中で念願の初優勝を果たすことができました。これも偏に茨城県ハンドボール協会をはじめ、選抜チームを支えていただいた関係者の皆様のおかげと感謝しております。また、第21回大会から三年間、このJOC大会の運営にご尽力いただいた福島県ハンドボール協会の皆様には、改めて心より厚く御礼申し上げます。

昨年度は、U-16日本代表にも選考された相澤菜月（現：水海道二高）という県内屈指のスーパースターを擁し、彼女の力を他のメンバーとどう融合させるかを考えていました。彼女の力があっての銅メダルだったといっても過言ではないでしょう。

今年の本県選抜チームは、飛び抜けた技能を持っている選手は一人もいませんでしたが、全員の力を結集して"堅守速攻"を武器に、昨年度、準決勝で敗退に終わった悔しさと、夢のファイナルの舞台（コート）に立ちたいという憧れをモチベーションに、スタッフ・選手一丸となって活動してきました。選手選考においては、関東・全国に出場することになったけやき台＆麻生の選手を中心に、5月や7月の県内の大会も参考に約30名の選抜候補選手を選考し、8月後半に3回の選考会を実施して、16名を選出しました。チームの大黒柱になるようなスター選手は見当たらなかった分、一生懸命守り、全力で帰陣する走力と体力を兼ね備えた選手16名を選考しました。9月から週2回の練習がスタートして、1ヶ月後には直ぐにブロック予選。練習量には不安はありましたが、何とか関東ブロック大会で東京選抜に辛勝し、久しぶりに優勝することができました。ブロック大会での選手の動きやDF力から、今年のチームの底力を感じ取ることができました。

12月の本大会に向け、改めて練習計画を練り直し、10月後半から練習開始。直前まで約25～26回の練習会を実施しました。県内の高校生との合同練習を中心に、時には近隣の選抜チームとの練習試合を行いました。特に、水海道二高女子ハンドボール部には、ほぼ毎週のように集合し合同練習をやらせていただき、本当に感謝しております。

決勝トーナメントに勝ち上がった各選抜チームは、全中や春中、JOC 大会で常連のチームばかり…。岡山選抜（全中 3 位）、沖縄選抜（全中 1、2 位）、山口選抜（春中 1 位）どのチームも凄い実績、結果を残していたチームであっただけに、試合が終わる度に、本県選抜チームの選手達の力に感動しておりました。JOC ジュニアオリンピックカップでの優勝というのは、県内のハンドボール関係者や保護者の方々の悲願でもあっただけに、本当にうれしく思います。

最後になりましたが、これまで茨城県選抜チームの活動にご協力をいただきました保護者の方々、茨城県ハンドボール協会並びに関係各位に改めて厚く御礼を申し上げます。そして、この初優勝をきっかけに来年度以降も、さらなる飛躍を目指して力を合わせてがんばっていきたいと思います。

茨城県選抜女子チーム主将　田沼美津希

県大会後、2014 茨城選抜女子チームのセレクションが行われました。これまでライバルとして戦ってきた他チームの人達と合同チームで攻防をするのは、楽しくもあり、不思議な気持ちでもありました。3 回のセレクションを通し、31 名から 16 名の選抜されたときには、嬉しさはもちろんありましたが、それ以上に選ばれなかった人たちの分まで最後まで頑張ろうと思ったのと同時に、茨城県の代表としての自覚をもち、応援してくれている方々のために全国制覇をして恩返しをすると心に決めました。練習が始まった当初は不安ばかりでしたが、ライバルとして戦ってきたみんなとプレーすることが楽しみな気持ちの方が大きかったのを覚えています。練習を重ねていくごとに、チームのまとまっていくのを感じ、プレーもつながるようになっていきました。

関東予選では、自分たちの持ち味である粘る DF からの速攻を武器に勝ち進み、東京選抜との決勝戦では、キーパーの好セーブに助けられ優勝することができました。

全国大会に向けての練習では、対戦相手を想定した練習を行いました。DF 練習では細かい部分まで繰り返し確認したり修正をしました。役割分担をはっきりとさせたことでより堅い守備ができるようになりました。OF では、関東予選にはなかったフォーメーションを練習したり、速攻のパターンなども増やす練習を行いました。

全国大会では、予選リーグの第一試合目秋田選抜戦では全員が出場し、全員が得点をするという最高のスタートを切ることができました。準決勝の沖縄戦では、後半に逆転される場面もありましたが、自分たちの DF を信じ、落ち着いて点数を重ね、21 対 19 で勝つことができました。決勝の山口選抜戦では、立ち上がりに 3 連取し、よい流れを保ったまま前半を 14 対 9 で折り返しました。しかし後半、相手の変則 DF に攻撃がうまくかみ合わず、15 分過ぎには 5 連続失点、2 点差に追いつかれてしまいました。しかし、みんなで声を掛け合いながら、焦らず粘って守り抜き、22 対 21 で勝利することができました。

全国制覇をすることができたのは、練習のたびにお弁当を作り送迎してくれた親、一緒に練習し励ましてくださった水海道二高、麻生高校の先輩方、そして、監督やコーチ、トレーナーさんのお蔭です。ありがとうございました。また、どんな時も自分たちの為に動いてくれたサポートメンバーの二人に心から感謝しています。

最後に、キャプテンとして最後まで務めることができたのは、最高のメンバーのお蔭です。この経験を生かし、これからも努力していきたいと思います。

最終順位

【男子】
優　勝：愛知県選抜
準優勝：岐阜県選抜
3　位：山口県選抜
　　　　富山県選抜

【女子】
優　勝：茨城県選抜
準優勝：山口県選抜
3　位：沖縄県選抜
　　　　大分県選抜

個人表彰

【男子】
■オリンピック有望選手
部井久アダム勇樹　福岡県選抜（多々良中央）
■最優秀選手
石黒理久　愛知県選抜（滝ノ水）
■優秀選手
河原脩斗　広島県選抜（メイプルジュニア）
藤田龍雅　東京都選抜（東久留米西）
藤川翔大　山口県選抜（平田）
朝野翔一郎　富山県選抜（氷見北部）
橋口博隆　熊本県選抜（松橋）
堀　勝一郎　岐阜県選抜（東山）
山﨑洸平　岐阜県選抜（ヴァルト岐阜）

【女子】
■オリンピック有望選手
該当なし
■最優秀選手
齋藤詩織　茨城県選抜（千代田）
■優秀選手
中村歩夢　岩手県選抜（矢巾）
今川真奈　山梨県選抜（山梨南）
川尻未友樹　埼玉県選抜（湖止）
三村亜美　岡山県選抜（琴浦）
金城ありさ　沖縄県選抜（港川）
小林可奈　茨城県選抜（土浦三）
宝田希緒　茨城県選抜（土浦三）

戦　評

男　子

■準決勝

愛知県選抜　21（10-8、4-6、3-1、4-2）17　山口県選抜

愛知県選抜は、全中優勝の培良中を中心とした京都府選抜を、山口県選抜は、大声援の力を背にした地元福島県選抜をそれぞれ倒しての準決勝となった。愛知県選抜は 5 番岩村のカットインで先制。山口県選抜も 4 番大西の速攻で同点とする。序盤からお互い機動力をいかした堅い DF を見せる。10 対 8 愛知県選抜リードで前半を折り返す。

後半、山口県選抜が 16 番尾川のポストシュートで 1 点差に、更に愛知県選抜に退場者がでたところで山口県選抜 3 番藤川がカットインを決めるなど連続得点で同点とする。その後は、愛知県選抜 12 番石濱、山口県選抜 12 番藤重の両 GK のファインセーブや、両チームともに豊富な運動量で粘り強い DF を見せ、緊迫した展開に。お互いチームタイムアウトで流れをつかもうとするが攻めきれず、14 対 14 で延長戦へ。

延長前半、愛知県選抜は、4 番清水の速攻などで 3 連取し、流れをつかむ。終盤に山口県選抜がプレス DF などを仕掛けるが、そのまま愛知県選抜が決勝へ。お互い 2 戦目にも関わらず、試合終盤まで運動量が落ちない素晴らしい試合となった。

岐阜県選抜　30（12-10、18-12）22　富山県選抜

岐阜県選抜のスローオフで試合開始。富山県選抜のフットワークを生かしたプレス DF に対し、岐阜県選抜は、長身の 2 番山﨑、6 番堀を中心としたパワフルな攻撃で得点を重ねていく。富山県選抜は、2 番朝野、14 番安平を入れ替えながら、OF リズムに変化をつけて得点を重ねる。前半 20 分過ぎから岐阜県選抜 GK1 番後藤の好セーブもあり、徐々に岐阜県選抜のペースになりつつも、富山県選抜も必死に粘り、12 対 10、岐阜県選抜リードで前半を終了する。

後半は一進一退の状況が続く。岐阜県選抜は、後半 13 分過ぎからの 3 連取と、16 分すぎからの 4 連取で、完全に主導権を握る形となる。富山県選抜は、チームタイムアウトで流れを変えようとするが、岐阜県選抜の 2 番山﨑を中心とした攻撃と、GK1 番後藤の連続阻止によって流れを引き寄せることができない。終盤、マンツーマン DF を仕掛け、逆転を狙うが力及ばず。30 対 22 で岐阜県選抜が勝利し、ベスト 4 入りに続き、決勝戦に初めて駒を進めることとなった。

■決勝

愛知県選抜　28（18-13、10-13）26　岐阜県選抜

愛知県選抜は、全員が組織的に動くコンビネーションからポストやサイドで得点するのに対し、岐阜県選抜は大型選手から繰り出すロングシュートで得点するなど、互いに特徴ある攻撃を見せる。前半 16 分岐阜県選抜 2 番山﨑のロングシュートが決まり、13 対 10 とこの試合初の 3 点差がつき、そのままを引き離すかと思われたが、愛知県選抜が機動力を生かした DF からの速攻など怒濤の 8 連取し、18 対 13 の 5 点差で前半を終える。

後半も愛知県選抜の得点が続き、6 分を過ぎたところで 23 対 15 と 8 点差が付く。この得点を維持しながら試合が進むかと思われたが、岐阜県選抜は 5 番岸のポストシュートなどで 4 連取し、じわじわと追い上げる。12 分岐阜県選抜がチームタイムアウトで DF の修正を行い、愛知県選抜の巧みな攻撃を粘り強く守る。すると、岐阜県選抜 2 番山﨑の強烈なシュートが 3 連続決まり、残り 40 秒で 1 点差となる。岐阜県選抜もプレス DF を仕掛け、手に汗握る展開となるが、最後は愛知県選抜 4 番清水がシュートを決め、28 対 26 とし、愛知県選抜として 10 年ぶり 5 度目の優勝を決めた。

女　子

■準決勝

茨城県選抜　21（11-9、10-10）19　沖縄県選抜

前半 3 分、沖縄県選抜がフリースローからのシュートを決め、初得点とする。その後は、茨城県選抜が得点すると沖縄県選抜が追随する緊迫した試合展開となる。茨城県選抜は、9 分 55 秒、7mT を決め、2 点リードとし、主導権を握るかという状況に。沖縄県選抜は、茨城県選抜の速いパスワークを封じるため、DF のシステムチェンジを試み、7 番金城の連続ゴールで同点にするも、茨城県選抜もセットオフェンスから落ち着いて加点し、11 対 9、茨城県選抜リードで前半を折り返す。

後半も互いに譲らずの攻防が続くも、沖縄県選抜 7 番金城、5 番上江州の連続ゴールで逆転成功。さらに 7 番金城、10 番東江がシュートを決め、2 点のリードを奪う。それでも茨城県選抜は、ターンオーバーからの速攻で同点とし、一進一退の展開に。14 分すぎ、沖縄県選抜の攻撃をカットし速攻につなげた茨城県選抜が再逆転に成功する。終盤、沖縄県選抜は、13 番小林、4 番田沼にダブル・マンツーマンをかけるが、茨城県選抜の攻撃を止めることができず、タイムアップ。21 対 19 で茨城県選抜が決勝に駒を進めた。

山口県選抜　25（13-7、12-13）20　大分県選抜

山口県選抜のスローオフで試合開始。山口県選抜が 15 番松本の得点で先制。さらに 14 番横田の 7mT や 13 番亀谷のポストシュートなどで連続得点し、4 対 0 とする。対する大分県選抜は、10 番秋岡のポストシュート、7 番佐野のシュートなどで得点し、4 対 3 と 1 点差に詰め寄る。しかし、山口県選抜は、切れのあるフェイントからのシュートを得意とする 15 番松本や、14 番横田と 8 番岡田の平田中コンビが攻撃の起点となり、徐々に差を広げ、13 対 7 と 5 点差をつけて前半を終える。

後半はじめにペースをつかんだのは大分県選抜。開始 1 分に先制されるも、4 連続得点で 3 点差に詰め寄る。その後、2 番佐藤の連続得点で得点を重ねる大分県選抜に対して、山口県選抜は 11 番村端のサイドシュートが冴え、得点を重ねる。その後一進一退の攻防を繰り広げる。大分県選抜はチームタイムアウトを要求し、流れをつかもうとするが、逆に直後に退場者を出し、山口県選抜に 3 連続得点を許す。見事なフットワークで大分県選抜の攻撃を退けた山口県選抜が、25 対 20 と、前半のリードを保ち、勝利した。

■決勝

茨城県選抜　22（14-9、8-12）21　山口県選抜

試合開始 2 分。茨城県選抜は、16 番齊藤の速攻を皮切りに 3 連取で試合の主導権を握る。その後は 3 点差の攻防が続くが、13 番小林を中心に加点する茨城県選抜に対して、山口県選抜は 15 番松本のカットインやフォーメーションで応戦する。守って速攻をかけたい山口県選抜ではあるが、茨城県選抜の早い戻りに苦戦を強いられる。茨城県選抜は、速攻や 7 番瀧川のポストシュートで確実に加点し、14 対 9 で前半を終了する。

後半、山口県選抜は高めの 3-2-1DF を仕掛け、パスカットからの速攻で 3 連取し差を縮める。茨城県選抜も徐々に変型 DF に慣れ、巧みなパスからのカットインで、再び差を広げていく。その後、山口県選抜が DF システムを使い分け、少しずつ差を縮めていくところで茨城県選抜がチームタイムアウト。しかし、直後の攻撃を失敗。更に戻り DF で、退場を出してしまう。山口県選抜は 7mT、5 番櫻木の速攻が決まり、1 点差に詰め寄る。残り 9 秒、山口県選抜はチームタイムアウトをとり最後の攻撃を仕掛けるが、茨城県選抜のブロックにかかりタイムアップ。22 対 21 の接戦を制した茨城県選抜が初優勝を飾った。

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2015

【最終順位】

■男子

優勝：北陸電力

準優勝：HC 岐阜

3　位：EHC

■女子

優勝：HC 福井

準優勝：奈良県ナデシコクラブ

3　位：愛媛選抜

期日：平成 27 年 2 月 6 日(金)〜 8 日(日)

会場：岐阜市・ヒマラヤアリーナ

全日本社会人ハンドボールチャレンジ 2015 大会を振り返って　大会委員長　土肥 正彦

本大会は平成23年度に「全日本社会人ハンドボールチャレンジ」と名称変更し、今回で 4 回目の大会を岐阜県岐阜市のヒマラヤアリーナにて開催いたしました。開催にあたり、岐阜県様、岐阜県および岐阜市の各ハンドボール協会様、ご協賛いただいた各企業様ならびに関係各位の皆様方にご尽力・ご協力を賜り、心からお礼を申し上げます。

参加チームは、男子の部に東北・関東・北陸・中部・近畿・中国・四国地方と幅広い地域から 23 チーム、女子の部に北陸・近畿・四国地方から 3 チームのご参加をいただき、昨年度より 7 チーム増となる 26 チームで開催することが出来ました。参加チーム数が増えたことはもちろんのこと、16 年振りに女子チームのご参加をいただきましたことについて大変喜ばしく思います。また、対戦組み合わせは、大会の活性化および各チームの強化を目的に、出来るだけ多くの試合をして頂けるよう、男子の部ではトーナメント戦敗者チームによる敗者戦を実施致しました。また、女子の部においては、2 回戦総当たりのリーグ戦を実施致しました。チームによっては 1 日 2 試合のハードスケジュールではありましたが、他チームとの親睦を深めつつ技術の向上も図れたのではないかと考えております。

3 日間に渡り熱戦が繰り広げられました今大会を振り返りますと、第 1 日目の男子の部トーナメント 1・2 回戦では、15 試合中 4 試合が同点となり 7 mスローコンテストになるなど、実力が拮抗した試合が数多く展開されました。第 2 日目には、男子の部敗者戦、準々決勝が行われました。また、この日から女子の部リーグ戦も行われ、会場が華やかな雰囲気となりました。第 3 日目、女子の部の事実上の決勝となった HC 福井と奈良県ナデシコクラブの一戦は、平成 30 年福井国体での飛躍を目指す HC 福井が危なげない試合運びで初優勝を飾りました。男子の部決勝では、北陸電力と HC 岐阜が対戦し、北陸電力が 14 年振り 3 回目の優勝を飾り、大会の幕を閉じました。

大会期間中、各チームが優勝を目指す一方で、B 級審判員の資格取得を目指す方の試験である「社会人連盟レフェリーコース」も開催されました。筆記試験・体力テスト・実技試験に合格すると B 級審判員の資格が得られ、この先の審判活動の幅を広げる事が出来るため、例年、社会人チームの選手や OB・OG の参加があり、今回はオムロンで活躍された OG1 名の方が参加されました。次世代のレフェリー育成の場として本大会が活用される事は非常に嬉しく思いますし、ハンドボール競技の発展に僅かながら寄与する事が出来たのではないかと思っております。来年度のチャレンジ大会については、福井県吉田郡永平寺町での開催を予定しており、大会開催にご承諾いただきました福井県ハンドボール協会様に深く感謝申し上げます。

最後になりますが、社会人ハンドボール競技の更なる活性化を目指し、今後もより広い範囲で参加を募り、多くのチームにご参加いただけるよう努めてまいりますので、関係各位の皆様方に変わらぬご支援賜りますようお願い申し上げます。

戦　評（男子）

【3 位決定戦】

トヨタ自動車　19（13 − 7、6 − 15）22　EHC

前半 9 分過ぎ、7 mスローを獲得した EHC は確実に得点するが、トヨタ自動車もすぐさま得点し、両チーム一歩も譲らない展開が続く。その後 12 分過ぎまで両チーム得点がなく、13 分過ぎにトヨタ自動車が速攻で得点し 6 対 5 とすると、続けてセットプレーでも得点し 7 対 5 とリードする。トヨタ自動車が 16 分過ぎにも速攻で 2 連取し 9 対 5 となったところで、EHC がタイムアウトを要求。巻き返したい EHC だが、シュートミスが続きなかなか得点出来ない。20 分過ぎからトヨタ自動車がリードを広げ 13 対 7 で前半を折り返す。

後半開始早々、トヨタ自動車はパスカットから速攻で得点する。その後 EHC も速攻で 2 連取するがトヨタ自動車も速攻で応戦し、5 分過ぎに 15 対 11 となる。その後トヨタ自動車が 1 人退場している間に 15 対 14 と EHC が一気に詰め寄ったところで、トヨタ自動車はタイムアウトを要求。タイムアウト明けに速攻を成功させた EHC は、15 対 15 と試合を振り出しに戻すが、トヨタ自動車が 3 連取し 18 対 15 とする。ここで一気にリードを広げたいトヨタ自動車だったが、この試合 2 人目の退場者を出してしまう。その間に 18 対 18 と再び同点となり、EHC が勢いづく。16 分過ぎにトヨタ自動車に 3 人目の退場者が出る

と、EHCが18対19と逆転に成功。その後、18対20となったところでトヨタ自動車がタイムアウトを要求。トヨタ自動車は24分過ぎに追加得点をあげ19対22とするが、EHCが勝利した。

【決勝】

北陸電力　28（10-5、18-17）22　HC岐阜

HC岐阜が先制するも、北陸電力が2連取し2対1とする。北陸電力は更に2連取し、5分過ぎに4対1とリードを広げる。なかなか得点出来ないHC岐阜は、セットプレーからロングシュートを決め4対2とする。14分過ぎ、北陸電力がセットプレーで得点し6対2となったところで、HC岐阜はタイムアウトを要求。その後、HC岐阜はセットプレーから得点し6対3とすると、ゴールキーパーのファインセーブもあり、一気に反撃したいところだが、シュートミスにより点差を縮めることが出来ない。21分過ぎ、HC岐阜に退場者が出ると、北陸電力が得点を重ね22分過ぎに10対4とする。その後、HC岐阜が1点返し10対5で前半を折り返す。

後半開始早々、HC岐阜が2連取し10対7と点差を詰める。その後、北陸電力は確実に得点を重ね、5分過ぎには14対9、10分過ぎには19対13とリードを保つ。HC岐阜は苦しい展開を強いられるが、17分過ぎに北陸電力が不正入場による退場者を出したのをきっかけに5連取し、21分過ぎには24対22と2点差まで詰め寄る。しかし、ここから北陸電力が4連取し、28対22で追い上げるHC岐阜を振り切り、北陸電力が優勝を飾った。

男子優勝　北陸電力

北陸電力ブルーサンダー主将　山原 佑太

全日本社会人チャレンジ2015を振り返って

はじめに、全日本社会人チャレンジ2015の開催にあたり、諸準備や大会運営等にご尽力を賜りました日本ハンドボール協会、並びに全日本社会人ハンドボール連盟、岐阜県ハンドボール協会をはじめとする関係各位の皆様方へ心より感謝申し上げます。

昨年の全日本社会人ハンドボール選手権大会の結果により、私達のチームは今年の全日本社会人ハンドボール選手権大会の出場権を失いました。今大会はその出場権をもう一度得る事を目標に参加いたしました。怪我人も数名おり、厳しい状況でしたが、無事優勝することができ、今年の全日本社会人ハンドボール選手権大会の出場権を得る事が出来ました。これも一重に日頃からご支援・ご声援を頂いている方々のおかげだと思っております。この場をお借りして心より感謝申し上げます。

今大会は、立ち上がりを特に意識して全試合に臨みました。今シーズン、実業団のリーグ戦では、前後半の開始10分の立ち上がりが悪く、なかなか優位に運べない試合が続いているためです。今大会では、コート上の選手とベンチの選手が立ち上がりから声を掛け合い、シュートが決まればみんなで盛り上がる事で、立ち上がりから主導権を握る事ができ、試合を優位に進められた事が勝因であり、一番の収穫だったと思います。

ここ数年で私達のチームは世代交代で一気に若い選手が増えました。チームとしても個人としてもまだまだ経験不足な面があり、能力的にも他の実業団チームに比べ劣っている部分が多く、なかなか今シーズンも勝ち星が遠い状況ですが、昨年の全日本社会人ハンドボール選手権大会の時

から比べると飛躍的に成長していると実感しています。そして、まだまだ伸びしろがあるチームなので、チームの課題を1つ1つクリアしていき、更なる成長を遂げられるよう日々の練習に励んでいきたいと思います。

最後に、今年の全日本社会人ハンドボール選手権大会では、地元である北陸地方の富山県で開催されることもあり、1つでも上位を目指し、日頃からご支援・ご声援を頂いている方に恩返しが出来るよう頑張ります。

女子優勝 HC福井

HC福井主将　近藤 美帆

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2015の開催にあたり、多大なるご支援・ご協力頂きました全日本社会人ハンドボール連盟、岐阜県ハンドボール協会、日本ハンドボール協会の方々をはじめ、関係者の皆様方に感謝申し上げます。

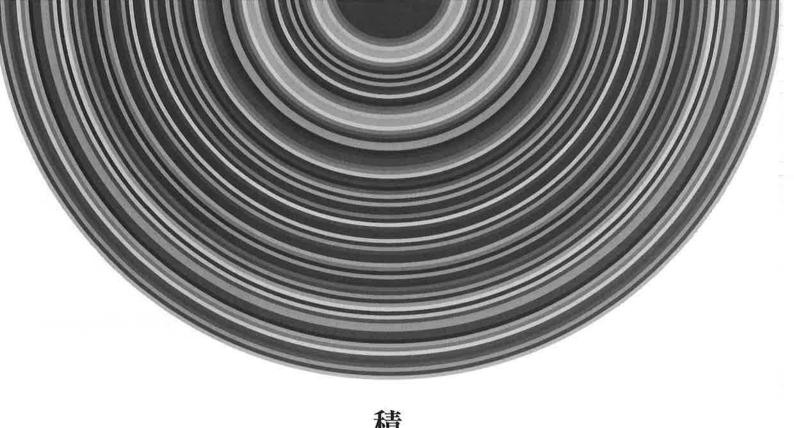
福井県成年女子は暫く本国体出場を逃しており、ここ数年悔しい思いをしてきました。そんな中、2018年の福井国体に向けて、2014年度より高野監督を迎え、更なる強化が始まりました。しかし、選手は皆、様々な職業に就いているため、週3回の練習のうち全員が集まれるのは月に1回あるかないかの状態。技術的課題もたくさんありますが、幅広い年齢層の中で個人プレーも多い今の私達にとって、「コミュニケーション力」が一番の課題となっていました。

今大会、14年ぶりに女子チームの開催が決まりました。「今まで練習してきたことがどこまで通用するのか」と挑戦することが出来ることや、試合数の少なかった冬期間の大会開催は、私達のモチベーションをあげるきっかけになりました。

なでしこクラブ、愛媛選抜との試合は、苦しい試合展開となりましたが、試合中やミーティングで意見を伝え、話し合い、ミスを修正しながら試合を組み立てることが出来ました。それが、今回の優勝に繋がったと確信しています。

一般であっても、自分の思いをしっかりと伝えることが、チームの成長に繋がることを全員が実感出来たのではないかと思っています。

チーム成長へのきっかけとなった今大会を「HC福井」の第一歩とし、大会で得た課題・経験を今後に繋げたいです。今後、まずは今年、必ず本国体に出場すること、そして最終的には福井国体で最低でもベスト8という結果で、県ハンドボール協会をはじめ、応援して下さる皆様に恩返しが出来るようこれからも日々頑張っていきます。

今後、この全日本社会人チャレンジ大会に、たくさんの女子チームが参加し、男子同様、ハンドボールが大好きで続けていたり、試合をしたいという気持ちをもっていたりする選手の方々の熱いプレーを披露出来る場になっていくことを心から願っています。来年度は福井開催となります。是非、女子チームの参加を心待ちにしております。よろしくお願いします。最後になりましたが、今大会のためにご尽力いただいた関係者の皆様方、女子の開催にご協力頂いた奈良県なでしこクラブ、愛媛選抜の方々、本当にありがとうございました。

第24回男子世界選手権から

第24回男子世界選手権は、2015年1月17日から2月1日までカタールで開催された。

華やか且つ最新技術を駆使した会場で行われた開会式で始まった大会は、参加24カ国が4つのグループに分かれ予選リーグを展開、決勝トーナメントを経て全試合88試合が3つの会場で行われた。

大会は、現在ヨーロッパおよびオリンピックのチャンピオンであるフランスが、LUSAIL多目的アリーナに17,000名の熱狂的なファンの前で、地元のカタールを破り、5度目の金メダルを勝ち取った。フランスは全9試合、攻撃面では全413shots中、259goalの得点率63％、守備面では全337shots、阻止122shotsの阻止率36％だった。大会の全試合平均では、得点率58％、阻止率30％となっている。

アジアからは、開催国のカタール、イラン、サウジアラビアの3カ国が参加、予選リーグではカタールが4勝1負の2位で決勝トーナメントに進み、欧州の強豪オーストリア、ドイツ、ポーランドを撃破、決勝ではオリンピックチャンピオンのフランスと接戦を演じ、アジア勢として初めての銀メダルを獲得した。他のアジア勢では、イランとサウジアラビアが予選リーグでは1勝も出来ずに下位順位決定トーナメントに廻り、夫々、チリ、アルジェリアに勝ち、21位・22位での直接対戦ではイランが勝利した。

金メダルのフランスチーム

【大会の順位】

金メダル：フランス
銀メダル：カタール
銅メダル：ポーランド
4. スペイン
5. デンマーク
6. クロアチア
7. ドイツ
8. スロベニア
9. マケドニア
10. スウェーデン
11. アイスランド
12. アルゼンチン
13. オーストリア
14. エジプト
15. チュジニア
16. ブラジル
17. チェコ
18. ベラルーシ
19. ロシア
20. ボスニア・ヘレツェゴビナ
21. イラン
22. サウジアラビア
23. チリ
24. アルジェリア

【カタール大会オールスターメンバー】

GK　ティエリ・オメーヤー（フランス）
LW　バレロ・リベラ（スペイン）
LB　ラファエル・カポーテ（カタール）
CB　ニコラ・カラバティッチ（フランス）
RB　ザルコ・マルコビッチ（カタール）
RW　ドラガン・ガジッチ（スロベニア）
PV　バルトス・ジュレキ（ポーランド）

【最優秀選手】

全283shotsの内、105saves（阻止率：37％）をしたフランスのゴールキーパー、ティエリ・オメーヤーが選ばれた。

開催国のカタールの活躍が際立った大会となり、開催国の活躍は観客動員にも大きく影響していた。リオデジャネイロオリンピック出場を賭けた女子アジア予選は2015年10月19日（月）～28日（水）日本・名古屋開催となったが、男子は2015年11月9日（月）～20日（金）今回の世界選手権開催国のカタール・ドーハでの開催となっている。

会場の一つ、lusail multipurpose hall

アジアの中で著しく実力を増してきたカタールとはどのような国なのか、少し触れてみることにする。カタール（The State of Qatar）は、国土11,437平方キロメートル、秋田県とほぼ同程度の大きさの面積、アラビア半島東部に位置するカタール半島のほぼ全域を領土とする半島の国家であり、アラビア半島から約160㎞ペルシャ湾（アラビア湾）に突き出している国である。日本との時差は－6時間であり、夏季は4月～11月頃までとなり、10月・11月の日中平均気温がそれぞれ約29℃・24℃（最高気温が43℃・38℃）となる。

人口は約184万人と日本で近い県は鹿児島県の人口と同程度となり、狭い国土に莫大な天然ガスと石油資源を有するため、カタールにおける国民1人当たりGDPは、10万ドルを超え、世界トップクラスにある。こうした経済力の表れであろうか、カタールの代表選手は、モンテネグロ、キュー

華やかな開会式の様子

大会使用ボールは日本のモルテン社製が採用

バ、フランス、スペインなどで活躍した選手が帰化しており、平均身長 188 ㎝、平均体重 90 ㎏と体格の面では決して優位ではないが、スペイン人監督を擁した試合の様子は、アジアと言うよりも正に欧州のハンドボールの感がある。

尚、体格面でみれば今回の世界選手権参加全選手の、平均身長は 191 ㎝、平均体重は 93 ㎏であり、昨年の日本代表アジア大会参加選手は、平均身長が 184 ㎝、平均体重が 87 ㎏と、身長で 7 ㎝、体重では 6 ㎏劣る。

1．参加国と成績

順	国・地域	金	銀	銅	合計
1	フランス	5	1	3	9
2	スウェーデン	4	3	4	11
3	ルーマニア	4	0	2	6
4	ロシア	3	3	0	6
5	ドイツ	3	2	1	6
6	スペイン	2	0	1	3
7	クロアチア	1	3	1	5
8	チェコ	1	2	2	5
9	ユーゴスラビア	1	1	4	6
10	デンマーク	0	3	1	4
11	東ドイツ	0	2	2	4
12	ポーランド	0	1	3	4
13	オーストリア	0	1	0	1
	ハンガリー	0	1	0	1
	カタール	0	1	0	1

2．アジア参加国の直近アジアでの成績

《第 16 回男子アジア選手権》

※上位 3 チームが、2015 世界選手権に出場

■大会期間：2014 年 1 月 25 日（土）～ 2 月 6 日（木）

■開催都市：バーレーン・マナーマ

■参加国数：12 ヶ国

■最終順位

金：カタール

銀：バーレーン

銅：イラン

4 位：UAE

5 位：韓国

6 位：サウジアラビア

7 位：クウェート

8 位：オマーン

9 位：日本

10 位：イラク

11 位：中国

12 位：ウズベキスタン

（カタール・日本の試合結果）

2 月 3 日：

カタール 33（15-15, 18-11）26 日本

《第 17 回アジア競技大会》

■開催期間：2014 年 9 月 20 日（土）～ 10 月 2 日（木）

■開催国：韓国・仁川

■参加国数：14 ヶ国

■最終順位：

優勝：カタール

準優勝：韓国

3 位：バーレーン

4 位：イラン

5 位：クウェート

6 位：オマーン

7 位：サウジアラビア

8 位：チャイニーズタイペイ

9 位：日本

10 位：中国

11 位：香港

12 位：モンゴル

13 位：UAE

14 位：インド

（カタール・韓国・日本の試合結果）

9 月 20 日：

韓国 31（17-11, 14-13）24 日本

10 月 2 日：

カタール 24（12-11, 12-10）21 韓国

リオデジャネイロオリンピックへの道

2016 年 8 月開催のリオデジャネイロオリンピック（ブラジル）のハンドボール競技出場国は 12 のチームとなっているが、参加枠の獲得を目指した各種の大会が既に始まり、大陸予選や世界最終予選など 2016 年 4 月まで暫時出場チームが決まる。

既に出場を決めたのは、開催国のブラジル（男・女）と、女子では欧州チャンピオンのノルウェー、男子は世界選手権チャンピオンのフランスである。日本を含めたアジアでは、リオデジャネイロオリンピックアジア予選（女子）が 2015 年 10 月 19 日㈪－ 10 月 28 日㈬日本・愛知県名古屋市で開催、男子は 11 月 9 日㈪－ 11 月 20 日㈮カタール・ドーハ で開催される。夫々の優勝チームが出場権を獲得、2 位のチームは、2016 年 3 月・4 月の世界最終予選に臨む。現時点では、カタールが世界選手権 2 位となり既に世界最終予選出場権を保持したことから、男子アジア勢は結果により 2、3 位までが世界最終予選への出場権を得る。

平成27年度 事業計画

平成27年4月1日　公益財団法人 日本ハンドボール協会

1. 競技力向上に関する事業

《強化》

【基本方針】

1. リオデジャネイロオリンピック出場権獲得に向け、最大限の準備を行う。
2. 熊本女子世界選手権、東京オリンピックでのメダル獲得を目指した強化活動を推進する。

【重点施策】

1. 海外拠点の設置に取り組む
   代表チームの対外試合の少なさは、日本の強化にとって致命的であり、海外に拠点を設け、そこを中心として色々なタイプのチームとのゲームを多くこなす。また、海外留学等個人が海外チームでプレーしやすい環境を提供できるようにする。外国人コーチを積極的に取り入れる。
2. 東京オリンピックへのチームビルドの前提として「東京オリンピック強化指定選手」を指名し、特化した強化計画に基づいて、個のフィジカル強化と競技の基礎技術であるフェイント力、ハンドリング、フットワーク力、ディフェンス力などの向上と判断力の養成を実施する。同時に人間力向上（代表教育、心理サポート）に取り組む。
3. 国立スポーツ科学センター（JISS）の支援を受け、スマートシステムの効率的運用や、個々の選手の体力・障害の有無などをデータベース化し集積管理、フィジカルの強化と障害の予防に努める。
4. 強化委員会の充実を図るため「強化戦略プロジェクト」の機能を強化委員会の中に置き、強化計画、スケジュール、国際情報等の企画・立案・サポートを行うと同時に、フィジカル・メディカル・メンタルコーチの充実を図る。
5. JOCのナショナルコーチアカデミーや在外研修制度を活用し、トップ指導者の養成を推進する。特に代表スタッフの語学力は必須になりつつあり、日本の国際競技力を上げるためにも積極的に取り組む。
6. 他競技からのタレント発掘（長身選手）に取り組む。
7. ゲーム分析、テクニカル分析などアナリストの養成に努める。
8. アンチドーピングの徹底を行う。

《発掘・育成》

【基本方針】

1. 世界基準を十分把握し、発掘育成に取り組む。
2. NTSでの選手発掘、指導者育成に最注力し、JHAジュニアアカデミーでの育成を図る。

【重点施策】

1. 世界基準の把握のため国際情報の収集・分析を行い発掘・育成に活かす
   (1) 国際大会（アジア選手権・世界選手権）の視察、情報、分析を行い、世界基準を把握する
   (2) NTSで指導方針（日本が目指すもの）を固め活動に取り組む
   (3) JHAジュニアアカデミーでは、指導方針に基づき大型選手を中心に個の力を最大限伸ばす事に取り組む
   (4) 世界で闘う人間力育成に取り組む

2. 普及・指導に関する事業

《小学生専門委員会》

【基本方針】

1. 小学生専門委員会、各ブロックの組織強化を図る。
2. Jクイックハンドボールの主旨の理解と実施の徹底を図る。
3. U-12指導者講習会を開催する。
4. J級公認指導員の養成に努める。
5. 小学生全国大会、ブロック交流会の充実を図る。
6. 大崎企業スポーツ事業研究助成財団の補助による事業展開を行う。
7. 日韓親善交流会を通し、各地区の活動の活性化を図る。

【重点施策】

1. 小学生委員会の組織を見直し、部門別の担当委員を決定する
2. 各県小学生委員からなるブロック小学生委員会を開催し、実態把握と小学生の活動の活性化を図る
3. Jクイックハンドボールの指導講習会を開催する
4. U-12の大会の在り方を検討する

《中学生専門委員会》

【基本方針】

1. 普及・強化活動の活性化に努める。
2. 学校現場や各地区の実態を把握し普及指導の充実を図る。

【重点施策】

1. 春の全国中学生ハンドボール選手権大会への全県出場、学校現場における部活動の現象に対する対策
2. 中学生女子のボールサイズの検討
3. NTSトレーニング、JOCジュニアオリンピックカップ大会等を通して有望選手の発掘と育成に努める

《学校体育検討専門委員会》

【基本方針】

1. 小中学校の授業における指導実践を進める。

【重点施策】

1. 文部科学省スポーツ・青少年局への働き掛けを進める
2. 研究委託制度の充実を図る
3. 第18回ハンドボール研究集会（授業研究検討）開催

《ビーチハンドボール専門委員会》

【基本方針】

1. 普及強化活動を推進する

【重点施策】

1. 各ブロックでのビーチハンドボール講習会の開催
2. 第17回全日本ビーチハンドボール選手権大会開催
3. 第5回アジアビーチゲームズ2016の日本代表選手選考・合宿

《マスターズ専門委員会》

【基本方針】

1. 各ブロックの活動を推進する。
2. マスターズの主旨の理解、浸透を図る。

【重点施策】

1. 第23回全日本マスターズ大会開催
2. 各ブロックでのマスターズハンドボール大会を実施し、主旨の理解を図る
3. 関西ワールドマスターズゲーム2021参加に向けての準備

《女性委員会》

【基本方針】

1. 女性指導者の実態を把握し、男女共同参画の実現を図る。

【重点施策】

1. 「女性指導者の指導環境における意識調査」の結果の集計・考察
2. 女性指導者としての課題の抽出と解決への取り組み

《指導委員会》

【基本方針】

1. 各都道府県、各ブロック、中央指導委員会との連携を強め具体的な活動目標を設定し、組織強化と活性化を図る。
2. 有機的な指導者育成・研修事業展開をする。

【重点施策】

1. 各都道府県において計画的な指導者研修会を実施する
2. 強化委員会、NTS運営委員会と連携し、一貫指導内容の共通理解を図る
3. 審判委員会と連携し、指導とレフェリングの共通理解を図る
4. 全国委員会、中央委員会を開催し組織内の意志の疎通を図る
5. 公認指導員養成講座、指導者研修会を県、地域、全国の範囲で開催し、指導者の量と質の充実を図る
6. 国際セミナーに参加し、海外の最新情報の収集と分析に努める

《競技者育成技術委員会》

【基本方針】

強化・指導・普及・NTS・審判等々との連携を密にし、それぞれの効果的な活動を図る。

【重点施策】

1. テクニカルグループで内容検討
2. NTS、指導委員会、審判部との連携上の具体化
3. 日本のハンドボールの姿を検討…NTSを柱として各部の事業を効果的な実施計画作成

3. 競技運営に関する事業

【基本方針】

1. 2019年2020年を踏まえた競技運営の組織を立ち上げ、その準備をスタート

する。
2.平成27年度日本選手権大会の開催運営にあたる。
3.高校選抜大会のスケジュール変更を推進する。
4.日本協会主催、共催大会及び国際大会を「大会開催マニュアル」、「大会運営マニュアル」を基本に管理運営にあたる。
5.テクニカルデレゲート（TD）制度の充実にあたる。
6.検定制度の充実、競技用具の開発にあたる。

【重点施策】
1.大会スケジュールの見直しを進める
2.大会運営マニュアル、競技運営マニュアルの改訂、TDの任務マニュアル改訂・充実を図る
3.TDを含め競技役員の資質向上を図るため、競技役員講習会を開催する
4.競技用具の改良、開発を図る

4.競技規則（審判）に関する事業

【基本方針】
1.組織の改善・充実および指導体系の充実を図る。
2.レフェリーの発掘、育成および拡大をする。
3.国際基準に沿ったトップレフェリーの強化をする。
4.競技規則の徹底を図る。
5.2019年、2020年を見据えた国際レフェリーの育成をする。

【重点施策】
1.組織の改善・充実および指導体系の充実
（1）各専門委員会の活性化を図るため、組織の改善と事業内容を見直し、計画的な取組みを実践する。
（2）各ブロック審判長・都道府県審判長の指導力向上と指導体系の確立と充実を図り、全国のレフェリーに国際基準に沿った判定基準と正しい運用方法が浸透するよう指導を行う。
2.レフェリーの発掘、育成及び拡大
（1）JHAレフェリーコース・A/B級審査会などとの連携強化を図る。
（2）高体連、学連、社会人連盟と連携しレフェリーを育成する。
（3）女性レフェリーを発掘・育成する。
（4）レフェリー登録数の増加を図る。
3.国際基準に沿ったトップレフェリーの強化
（1）日本選手権・日本リーグなど、トップゲームにおける国際基準の判定を徹底させるため、技術・情報の分析および伝達を迅速に行う。
（2）レフェリーアカデミーを推進させる。
（3）トップレフェリー研修会を実施する。
4.競技規則の徹底
（1）競技規則の正しい運用を目指し、各地講習会の内容統一とともに、『審判員の目標』を徹底させる。
（2）競技運営委員会および指導委員会と連携し、講習会に指導者やプレーヤーの参加を働きかけるとともに、NTSへの参加、レフェリーシンポジュームの開催など相互理解を目指す。
（3）全国大会担当レフェリー研修会を実施する。
5.2019年、2020年を見据えた国際レフェリーの育成
（1）IHF/AHFレフェリーの育成と併せ、国内レフェリーにも最新の国際情報を提供する。
（2）有望レフェリーの海外研修派遣を計画する。

5.総務に関する事業

【基本方針】
ガバナンス・コンプライアンス体制の強化により適正かつ円滑な事業執行と事業進捗を図ると共に引き続き業務の効率化に努める。

【重点施策】
1.円滑な事業推進に向けた業務の効率化
2.事務局業務の整備・充実
3.コンプライアンスの徹底
4.環境保全活動の実践活動の継続
5.個人情報保護法の遵守と徹底
6.諸規定の整備

6.国際に関する事業

【基本方針】
日本ハンドボール協会を始めとする国内外関係者の国際的活動に係る情報の収集・提供および活動の支援を実施する。また、国内外のステークホルダーとの連携・ネットワーク構築をする。
1.国際機関との連携促進およびネットワーク構築をする。
2.国内外における関係者の国際的活動支援を行う。
3.日本代表に係る国際的活動支援を行う。
4.国際大会や国際会議の開催支援を行う。
5.国際的催し物への参加と支援をする。

【重点施策】
1.日本ハンドボール協会を始め、国内外ハンドボール関係者やチームなどの国際的活動支援
2.審判ならびにテクニカルデレゲート、レクチャラーなどの派遣および活動支援
3.海外情報種集とその活用、海外移籍の事務的支援
4.新強化体制2020東京オリンピックに向けての国際事業検討
5.日本代表チームなどの海外国際大会派遣などの事務的支援
6.2019年女子熊本世界選手権、2020年東京オリンピック開催に係る国際的活動支援（連絡・交渉・情報収集）および具体的な国際アクションプランの検討
7.国際ハンドボール連盟総会を始めとする各種国際会議やシンポジウム、世界選手権や国際大会などへ参加し、国際情報の収集および国内情報の発信を実施、また関係機関の活動を支援
8.次世代の国際担当者の新規発掘と育成継続とその効果拡大

7.財務・会計に関する事業

【基本方針】
平成26年度は、リオデジャネイロオリンピックアジア予選を始め各種事業の円滑な推進、また2019年2020年に向けた強化資金の獲得と2019年女子世界選手権に向けた財源確保に取り組む必要がある。そのため収入面においては、マーケティング委員会を中心とした協賛活動や支援獲得活動の取り組みと各種補助金助成金の有効活用を図る。支出面では、各事業において計画的予算執行を依頼し、効率の良い事業運営を推進していく。

【重点施策】
1.適正な予算配分と管理の徹底
2.マーケティング委員会を中心とした各種運営費の積極的な財源確保
3.各種補助金助成金の積極的活用
4.2019年女子世界選手権開催に向けた財源確保
5.2020年に向けた強化資金の獲得推進

8.広報に関する事業

《広報事業》

【基本方針】
1.注目度アップ、バリューアップに繋がる情報の発信を図る。
2.協会事業の周知徹底を図る。
3.マスコミとの交流を拡大する。
4.協会広報のタイムリーかつスムーズな運営を図る。
5.インターネット情報の充実・拡大を図る。

【重点施策】
1.代表チームの情報発信の充実
2.マスメディアへの積極的情報発信
プレスリリース・記者発表・記者会見・定期懇談会の実施
3.ホームページの充実
4.インターネットと機関誌の連携充実
5.トップリーグ連携機構との連携活動
6.2019年、2020年に特化した広報活動
7.組織の強化
8.マーケティングとの連携によるバリューアップ活動の推進

《インターネット》

【基本方針】
1.情報提供の充実とアクセス数アップを目指す。
2.作業の効率化・スピードアップを図る。
3.新たな情報発信方法の実施と円滑な運営に取り組む。

【重点施策】
1.日本協会ホームページの充実
（1）代表チームの情報発信の充実を図る
（2）2019年、2020年を踏まえた広報活動の計画化、充実を図る
（3）新たな情報発信方法の検討し実施する
（4）試合結果等の情報発信のスピードアップと内容の充実を図る
2.ホームページ等、円滑な運用のための体制強化を図る

9.機関誌発行に関する事業

【基本方針】

機関誌発行を通じ、日本協会方針・計画の徹底と都道府県協会・各連盟等日本協会組織全体の情報共有化と連帯感の高揚を図る。又、協会活動経緯の一覧性・保管性を提供し、ハンドボールの指導・普及・強化等夫々の活動関係者に様々な関連情報を伝えることにより、ハンドボール界の発展に寄与する。

【重点施策】

1. 施策方針・理事会・各委員会組織からの情報発信としての場、都道府県協会からの情報発信としての場として、機関誌をより効果的な利用を追及する。
2. インターネット掲載情報との密接な連携を図り、機関誌と相互の情報の質を高めることで、情報発信機能の役割を高める。
3. 大会報告記事では単に報告に留まらず、大会を取り巻く様々な状況などを掲載することで、大会の特徴など読者の興味に応える掲載を図る。
4. 機関誌のあり方・掲載内容については適宜見直しを図り、常に機関誌の役割と特徴を意識した運営に努める。
5. 年間8回の発行回数を維持する。
6. 指導者のみならず、選手・部員も容易に購読できる環境整備のための方策を図る。
7. 2019年、2020年を踏まえた連載企画を実現する。

10. 企画に関する事業

【基本方針】

1. 日本ハンドボール協会の現状分析を行い、短期･中期事業計画を立案検討する。
2. 2019・2020に伴う各事業本部、プロジェクトの活動を総合的に調整・立案・推進すべく活動を行う。

【重点施策】

1. 社会人連盟の拡大・充実を図る
2. 日本選手権を実施し更なる充実を図る
3. 2019年女子世界選手権大会開催に向けた準備を進める
4. 2020年に向けて運営体制の整備に取りかかる

11. マーケティングに関する事業

【基本方針】

1. 2019年、2020年に向けて、大きなバリューが生まれたことによる、マーケティング活動の更なる推進を図る。
2. ハンドボールが持っているあらゆるバリューの創出を図り、マーケティング活動を行う。
3. 日本協会の収入の大きな柱となるマーケティング収入の確保・拡大を図る。

【重点施策】

1. マーケティング収入目標6,000万円
   (1) オフィシャルスポンサー、オフィシャルサプライヤーの確保と拡大
   (2) 国内各大会毎の大会協賛金の確保
   (3) ナショナルユニフォーム広告等
   (4) 機関誌、プログラム広告等
   (5) 物品販売
2. 新規協賛企業の開拓、拡大
3. 2019年に向けた特別協賛企業の獲得に向けた活動
4. 新しい強化資金作りの活動をスタートさせる（ファンドレイジング）
5. オリジナルグッズ、DVD等の企画販売（日本協会、日本リーグ）
6. 各種イベントの企画（ハンドボールマンゴルフ大会･スポンサー感謝の集い他）
7. 協会主催大会及び各都道府県・各連盟に対するマーケティング活動の指導並びに、協賛パートナーの拡大・協力
8. JOC、トップリーグ連携機構との連携・協力によるマーケティング活動の向上
9. 「広告代理店」、「イベント会社」、「 グッズ企画販売会社 」、等の中からも新たなマーケティング活動のチャンスを開拓
10. 事務局マーケティング担当の活性化を図り、各委員の担当を明確にして推進
11. 2015 リオ予選開催のマーケティング活動を行う

12. 日本リーグに関する事業

【基本方針】

日本リーグの理念に基づき、ハンドボールのステータスを向上させるために全力で取り組む。日本協会強化本部と連携をして、日本リーグ選手が日本代表選手として国際大会で戦い抜くため、更なる試合内容の充実をはかり、競技力向上に努めると共に日本代表チームの強化を支援してゆく。

地域に根ざしたホーム＆アウェイを行い、集客数の改善に努め、施策の1つとして集客指定試合を各チームに義務づけ、企画、運営等独自性のある大会運営にしてゆき、日本ハンドボール界の運営の手本となるよう「プロの興業集団」を目指す。

未来の日本リーグ選手を夢見る子供達のために、地域に密着した環境作りを推進する。そしてリーグの更なる充実のために「新規加盟チームの誕生」を目標として、プロジェクトを立ち上げ、これまで以上に強化し早期実現に努める。その一貫として「チャレンジ・ディビジョンチームの参加拡大」に努めてゆく。

財政基盤の確立のため、マーケティング部の充実を図る。日本リーグ開幕40周年にあたり、40回記念大会の成功と、次の10年、40周年に向けたビジョンを確立させる。また、日本ハンドボールリーグのバリューアップのために、様々な媒体を利用したメディア等への露出を増やしてゆく。

【重点施策】

《総務部》運営の諸整備を推進し、日本リーグの運営をより協力かつ円滑なものに変革し運営体制を強化する

1. 集客指定試合の充実
2. 各事業内容、各部会任務の明確化及び改善
3. 円滑な大会運営にむけたマニュアル等各種ツールの整備
4. 開催地責任者・GM合同研修会の活性化と開催地の連携強化
5. 震災復興支援活動等の社会貢献活動の推進

《チャレンジ・ディビジョン》トップリーグ参入チームの支援、発掘

1. 参加チームの競技力向上及び体力強化支援
2. トップリーグ参入への支援体制強化

《広報部》メディア、ファンに対する情報発信

1. 日本リーグ40回大会の充実
2. 広告媒体を使用した日本リーグの露出度を増
3. 集客アイテムとして全国で使用できるポスター作成
4. 試合開催情報の発信の強化と方策立案

《マーケティング部》日本リーグの活性化と収益拡大

1. リーグスポンサーの獲得
2. リーグ各チームのマーケティングの一括管理
3. リーグ、協会とのスポンサー権利の明確化

《競技・審判部》レフェリーの技術向上及びチームとの共通理解

1. コーチ・レフェリー合同研修会開催
2. JHLオフィシャル研修会開催
3. チャレンジ・ディビジョンへの若手レフェリーの登用と指導
4. レフェリー評価表を活用したレフェリーへのフィードバック

《スケジュール部》日本リーグの活性化を図りつつ代表活動との連携

1. 日本協会強化本部との連携したスケジュール作り
2. 各チームの運営経費軽減を重視したスケジュール
3. 活性化及び集客に結びつく日程調整
4. 第3地域での計画的な開催
5. 男女ペアカードを公募できる調整
6. 各地記念行事に合わせた日程調整

《普及部》全ジュニアチームの設立による日本リーグの活性化

1. ジュニアチーム活性化のための情報交換
2. ジュニアリーグ開催における日本リーグの経費負担軽減策検討
3. 開催場所の計画立案（ローテーションや全国公募等）
4. 東西リーグチーム分けの検討

《記録部》PCスコアの改善とデータベースを活用した情報発信のシステム構築

1. PCスコアのスムーズな運用
2. 膨大な記録データの管理と逐次情報発信ができる体制の準備

《トップリーグ参入PJ》早期実現に向けてプロジェクトの強化

1. 東京での参入チーム作りの具体化
2. その他、地域での新規参入チームの誕生を支援する
3. 日本協会、都道府県協会との連携強化

《中長期ビジョンPJ》

新規プロジェクトチームを立ち上げ日本リーグ50周年に向けた新たなビジョンを策定する

《強化PJ》

試合の充実を図るため、監督を中心に強化プロジェクトを立ち上げる

13.『がんばれ20万人会』サポート会員に関する事業

【基本方針】

「ハンドボール界総力をあげての日本代表応援」、「ハンドボールのバリューアップ」という本来の目的を踏まえ、サポート会員の拡大、拡充を図ると共に、各連盟、各都道府県協会との連携を図り、20万人を目指す。

【重点施策】

1. 各連盟、各都道府県協会との連携強化による会員加入促進
2. サポート会員入会案内活動推進
3. 会員への情報、サービスの拡充
4. 会則、諸条件の見直し・充実

平成27年（2015年）度　国内・国際大会日程

	大会名	開催日程（競技日）	開催地	備考（開催場所等）
4月	※第12回東アジアクラブ選手権（男・女）	4月16日（木）－4月19日（日）	大分県・別府市	べっぷアリーナ、JHLプレーオフ優勝チーム
	※東アジア連盟総会	4月　日（　）	大分県・別府市	
5月	高松宮記念杯第5回全日本社会人選手権	5月20日（水）－5月24日（日）案	富山県・富山市	富山市総合体育館
6月	※日韓定期戦2015	未定	韓国	男女ナショナル
	日体協公認上級コーチ養成講習会（専門科目）	6月23日（火）－6月27日（土）予定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	※第3回U-22東アジア選手権（男・女）	6月23日（火）－6月29日月）	台湾・台北	男女U-22
	※第20回ヒロシマ国際大会	6月26日（金）－6月28日（日）	広島県・広島市	男女ナショナル
7月	※第28回ユニバーシアード競技大会	7月3日（金）－7月14日（火）	韓国・光州市	男女学生
	第35回全国クラブ選手権大会・西地区大会	7月11日（土）－7月12日（日）	広島県・広島市	広島グリーンアリーナ他
	第35回全国クラブ選手権大会・中地区大会	7月11日（土）－7月12日（日）	新潟県・柏崎市上越市	柏崎市総合体育館、西山総合体育館、柿崎総合体育館
	第35回全国クラブ選手権大会・東地区大会	7月11日（土）－7月12日（日）	山梨県・甲府市	小瀬スポーツ公園体育館、緑が丘スポーツ公園体育館
	※第20回男子ジュニア世界選手権	7月19日（日）－8月2日（日）予定	ブラジル・	男子ジュニア（U-21）
	第23回全日本マスターズ大会	7月31日（金）－8月2日（日）	愛知県・豊田市	スカイホール豊田他
	第28回全国小学生大会	7月31日（金）－8月1日（土）	京都府・京田辺市	京田辺市田辺中央体育館、同志社大学京田辺キャンパス体育館
8月	高松宮記念杯第66回全日本高校選手権大会	8月2日（日）－8月7日（金）	大阪府・堺市	堺市金岡公園体育館、堺市家原大池体育館、堺市立大浜体育館、堺市原池公園体育館、堺市立初芝体育館
	第18回ハンドボール研究集会	8月4日（火）－8月5日（水）	長崎県・佐世保市	佐世保市体育文化館
	※第13回女子ジュニアアジア選手権	8月6日（木）－8月13日（木）案	カザフスタン・アルマトイ	女子ジュニア（U-20）
	第20回ジャパンオープントーナメント・岩手国体リハーサル大会	8月9日（日）－8月12日（水）	岩手県・花巻市	花巻市総合体育館、富士大学スポーツセンター
	西日本学生選手権大会	8月9日（日）－8月13日（木）	愛知県・豊田市	スカイホール豊田他
	東日本学生選手権大会	8月10日（月）－8月13日（木）	石川県・金沢市	いしかわ総合スポーツセンター
	※第6回男子ユース世界選手権	8月10日（月）－8月31日（月）	ロシア・	男子ユース（U-19）
	第42回全国高等専門学校選手権大会	8月19日（水）－8月21日（金）	熊本県・八代市、宇城市	熊本県八代市総合体育館、宇城市松橋総合体育文化センター
	第44回全国中学校大会	8月21日（金）－8月24日（月）	岩手県・花巻市	花巻市総合体育館他
	第17回全日本ビーチハンドボール選手権大会	8月22日（土）－8月23日（日）	愛知県・南知多町	
	※第23回日韓中ジュニア交流大会	8月23日（日）－8月29日（土）予定	韓国・	高校生
	※第6回女子ユースアジア選手権	8月27日（木）－9月5日（土）案	未定	女子ユース（U-18）
	※第7回日韓小学生親善交流（受入）	8月　日（　）－8月　日（　）	山口県・岩国市	小学生
	NTSブロックトレーニング	8月上旬－9月上旬	各ブロック	各地
	※日韓スポーツ交流（派遣／男子）		韓国・	男子U-16
	※第19回日韓スポーツ交流（派遣／女子）		韓国・	女子U-16
9月	※日韓スポーツ交流（受入／男子）	9月　日（　）－9月　日（　）	東京都・北区	男子U-16
	第70回国民体育大会	9月28日（月）－10月2日（金）	和歌山県・和歌山市、紀の川市、岩出市	和歌山ビックホエール、和歌山市河南総合体育館、紀の川市立体育館（仮称）、岩出市立体育館
10月	※第19回日韓スポーツ交流（受入／女子）			女子U-16
	※リオデジャネイロ五輪アジア予選（女子）	10月19日（月）－10月28日（水）	愛知県・名古屋市	女子ナショナル
11月	高松宮記念杯男子58回女子51回全日本学生選手権	11月7日（土）－11月11日（水）	北海道・函館市	函館アリーナ、函館大学体育館、函館大学付属有斗高校体育館
	※リオデジャネイロ五輪アジア予選（男子）	11月9日（月）－11月20日（金）	カタール・ドーハ	男子ナショナル
	第40回日本リーグ（男子レギュラーシーズン）	11月14日（土）－予定	各地	
	第13回日本車椅子競技大会	11月21日（土）－11月22日（日）	徳島県・鳴門市	鳴門アミノバリューホール
12月	※第22回女子世界選手権	12月5日（土）－12月20日（日）	デンマーク・ヘアニング、コリング、フレゼリクスハウン、ネストベズ	女子ナショナル
	第67回日本選手権大会	12月22日（火）－12月27日（日）	愛知県・名古屋市	愛知県体育館、枇杷島スポーツセンター
	第24回JOCジュニアオリンピックカップ	12月24日（木）－12月27日（日）	沖縄県・浦添市、那覇市	浦添市民体育館、沖縄県立武道館
1月	NTSセンタートレーニング（高校生）	1月4日（月）－1月6日（水）	東京都・北区	
	第40回日本リーグ（女子レギュラーシーズン）	1月9日（土）－予定	各地	
	NTSセンタートレーニング（中学生）	1月9日（土）－1月11日（月）	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
2月	全日本社会人チャレンジ2016	2月5日（金）－2月7日（日）案	福井県・永平寺町	
	※第17回男子アジア選手権	2月13日（土）－2月24日（水）案	未定	男子ナショナル
	日体協公認コーチ養成講習会（専門科目）	2月15日（月）－2月20日（土）予定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
	トップコーチセミナー	2月21日（日）－2月22日（月）予定	東京都・北区	味の素ナショナルトレーニングセンター
3月	第40回日本リーグプレーオフ	3月　日（土）－3月　日（日）		
	第11回春の全国中学生選手権大会	3月25日（金）－3月29日（火）	富山県・氷見市	氷見市ふれあいスポーツセンター他
	第39回全国高校選抜大会	3月25日（金）－3月30日（水）	兵庫県・神戸市、加古川市、高砂市	グリーンアリーナ神戸、神戸市立中央体育館、神戸国際大学体育館、加古川市立総合体育館、高砂市総合体育館

2015.02.14現在　※は国際大会

平成26年度　チーム数・選手数一覧表

2015年2月末

	都道府県	一般L		一般A		リージョナル		大学		高専		高校		中学校		中学少年団		小学校		小学少年団		合計	
		チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数	チーム数	人数
1	北海道	0	0	13	229	7	105	37	583	3	76	61	1258	17	340	2	11	6	71	8	96	154	2769
2	青森県	0	0	10	147	0	0	6	100	1	19	18	391	5	40	0	0	0	0	0	0	40	697
3	岩手県	0	0	14	229	10	137	5	66	1	20	35	774	32	783	0	0	2	31	6	92	105	2132
4	宮城県	1	17	3	48	0	0	11	204	2	34	43	1075	19	420	0	0	4	36	4	42	87	1876
5	秋田県	0	0	8	121	0	0	3	67	1	23	12	256	7	116	0	0	0	0	0	0	31	583
6	山形県	0	0	4	77	0	0	3	40	1	21	19	483	5	75	0	0	0	0	0	0	32	696
7	福島県	0	0	6	100	0	0	2	25	0	0	44	862	29	710	0	0	8	132	2	13	91	1842
8	茨城県	0	0	6	79	10	142	4	78	0	0	60	1049	36	741	0	0	10	137	6	62	132	2288
9	栃木県	0	0	5	75	0	0	1	12	0	0	15	317	16	288	0	0	8	80	0	0	45	772
10	群馬県	0	0	8	120	1	9	3	49	0	0	19	444	17	339	1	5	4	55	0	0	53	1021
11	埼玉県	1	19	10	167	1	12	8	179	0	0	92	2155	60	1248	0	0	5	58	6	48	183	3886
12	千葉県	0	0	8	166	7	101	8	179	0	0	61	1359	35	657	1	10	8	67	8	79	136	2618
13	東京都	0	0	30	608	50	839	55	1156	2	37	148	3276	60	782	0	0	11	119	2	18	358	6835
14	神奈川県	0	0	8	149	5	56	17	370	0	0	151	3073	109	2249	0	0	9	119	4	19	303	6035
15	山梨県	0	0	7	117	8	118	4	35	0	0	25	457	13	232	0	0	0	0	5	63	62	1022
16	長野県	0	0	5	81	0	0	4	58	0	0	32	556	12	233	0	0	0	0	0	0	53	928
17	新潟県	0	0	5	69	1	8	6	87	1	20	11	281	1	10	0	0	1	16	0	0	26	491
18	富山県	0	0	6	96	3	32	4	73	1	19	20	436	39	742	0	0	17	225	3	38	93	1661
19	石川県	1	19	9	145	3	44	8	117	2	54	24	475	21	491	0	0	4	71	0	0	72	1416
20	福井県	1	20	5	69	2	23	2	32	1	29	15	311	12	277	0	0	5	62	0	0	43	823
21	静岡県	0	0	7	107	2	30	4	68	2	32	42	1148	5	107	1	11	0	0	1	12	64	1515
22	愛知県	4	87	15	265	28	188	35	703	1	25	246	6412	196	4848	6	13	13	125	18	151	562	12817
23	三重県	1	16	5	84	1	0	4	63	1	17	39	888	30	648	0	0	6	72	4	42	91	1830
24	岐阜県	1	17	7	122	0	0	6	112	1	35	47	1133	52	1216	4	42	8	105	10	119	136	2901
25	滋賀県	0	0	4	56	0	0	4	58	0	0	22	502	14	311	0	0	1	19	0	0	45	946
26	京都府	0	0	4	77	10	99	20	297	1	16	32	692	30	544	0	0	18	394	0	0	115	2119
27	大阪府	0	0	7	118	0	0	27	513	1	17	116	2892	64	1139	2	36	4	45	8	93	229	4853
28	兵庫県	0	0	7	126	7	113	11	238	1	17	89	1879	32	679	0	0	6	76	2	33	155	3161
29	奈良県	0	0	5	81	0	0	7	111	1	24	26	505	17	299	0	0	4	52	2	23	62	1095
30	和歌山県	0	0	6	94	6	74	2	30	1	20	19	308	14	131	0	0	6	34	0	0	54	691
31	鳥取県	0	0	4	60	0	0	1	15	1	26	16	319	7	95	0	0	2	20	0	0	31	535
32	島根県	0	0	2	29	0	0	1	14	1	28	11	194	4	40	0	0	2	21	0	0	21	326
33	岡山県	0	0	11	177	11	132	6	151	1	22	49	1100	18	347	1	7	0	0	13	189	110	2125
34	広島県	2	40	4	73	3	33	8	133	1	7	18	352	9	104	0	0	6	70	2	13	53	825
35	山口県	0	0	9	120	4	60	2	41	2	46	26	624	20	401	2	11	8	161	4	75	77	1539
36	香川県	0	0	4	67	1	0	3	68	1	31	21	459	20	472	0	0	4	30	2	39	56	1166
37	徳島県	0	0	2	32	0	0	5	63	1	25	13	299	5	79	0	0	0	0	0	0	26	498
38	愛媛県	0	0	7	130	0	0	6	97	0	0	30	703	5	131	2	34	6	52	0	0	56	1147
39	高知県	0	0	4	55	1	6	3	40	1	13	13	182	9	157	0	0	2	43	0	0	33	496
40	福岡県	0	0	6	95	0	0	16	298	4	106	55	1294	30	504	0	0	6	65	3	40	120	2402
41	佐賀県	1	20	5	71	0	0	2	28	0	0	13	260	9	91	0	0	2	30	0	0	32	500
42	長崎県	0	0	4	63	0	0	1	22	1	24	30	630	14	236	2	23	4	57	0	10	56	1065
43	熊本県	1	20	5	77	0	0	5	92	2	45	53	1170	29	542	0	0	16	368	6	28	117	2342
44	大分県	0	0	4	38	6	70	2	27	0	0	12	227	14	199	0	0	4	70	6	51	48	682
45	宮崎県	0	0	4	58	5	34	2	30	1	26	34	780	19	285	0	0	9	108	4	41	78	1362
46	鹿児島県	1	19	4	61	1	12	4	65	1	19	31	573	13	257	0	0	7	90	4	44	66	1140
47	沖縄県	1	17	11	181	24	345	7	107	2	33	78	1776	73	1904	0	0	30	471	9	191	235	5025
	合計	16	311	327	5409	218	2822	385	6994	46	1006	2086	46589	1297	26539	24	203	276	3857	152	1764	4827	95494

～長期ビジョンで任せたい～

企画・広報委員
早川　文司

フリースロー
Free Throw

リオデジャネイロ・オリンピック出場を目指す男子日本代表監督に大崎電気を率いる岩本真典氏の就任が決まった。

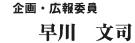
昨年秋の仁川アジア大会で史上最低の９位に終わった責任を取って11月に辞任した松井ジャパンの後任。約３カ月のブランクがあってやっと決まったという感じだ。どんな人たちがリストアップされていたのかはわからないが、一部報道では某リーグ監督の就任も報じられていた。

とりあえずは一刻も早く代表メンバーを決めて始動することが大切だ。とはいえ、日本リーグが終盤を迎えての就任だけに、スケジュール調整の面で難しさもあることは確かである。

岩本監督のプレーヤーとしての実績は文句ない。日本を代表するビッグネームだ。日本リーグ通算1079得点は歴代１位。世界選手権にも３度の出場を誇っている。

また、指導者としても輝かしい戦歴を残している。国体、全日本総合選手権を各３度、全日本社会人選手権２度、そして日本リーグは前回までで１度と、合わせて９度のタイトルをつかんでいる。

こうした指導力を高く評価しての代表監督就任だろうが、とにかく“戦う集団”を早くつくり上げてもらいたいものである。リオへチャレンジする猶予期間は限られている。まずは当面、予定されている日韓定期戦でどのようなチームの方向性が示されるか興味津々だ。

その後はおそらく海外遠征をこなしながら、チーム、選手個々のレベルアップに取り組むだろう。さらにはチームとしての共通認識の醸成も重要だ。それらをうまくからませながら11月にカタールのドーハで開かれるリオ五輪アジア予選を目指したい。

世界選手権ではカタールが準優勝したように、中東勢や韓国も代表権獲得に血眼になっているだろう。日本として、手をこまねいているわけにはいくまい。むしろ、血眼になるのは９位にまで沈んだ日本の方だ。

再建を託すことになった「岩本ジャパン」には球界挙げてのバックアップが欠かせないのはもちろんである。日本リーグの日程も絡むだけに、リーグ機構の協力も当然重要である。

そうした中で、性急に結果を求めすぎては、これまでと同じ轍を踏むことになりかねない。リオ五輪だけを見据えるのではなく、2020年東京五輪までの長いスパーンで強力なチームに仕立て上げる周囲の忍耐力も大切ではなかろうか。強力集団は一朝一夕では生まれない。長い目で“岩本ジャパン”を見守りたい。

日本オリンピック委員会 ナショナルコーチアカデミー 受講報告

日本ハンドボール協会 ジュニア専任コーチ
舎利弗　学

平成26年度日本オリンピック委員会「ナショナルコーチアカデミー」が2014年6月と10月の2か月間、計8週に渡り開催され、今年度、日本ハンドボール協会から派遣され受講する機会に恵まれました。

今号では、過日の「ナショナルコーチアカデミー」につきまして、本誌で報告する運びとなりました。

ナショナルコーチアカデミー（NCA）は、平成12年9月に策定された「スポーツ振興基本計画」にもとづいて、オリンピックをはじめとする国際競技大会で活躍できる選手を育成・指導する真のエリートコーチやスタッフの養成するために、平成15年からのトライアルを経て、平成20年10月から正規コースがスタートしました。（今年で7期生）

コンセプトは、日本の代表としての品性・資質を兼ね備えた真のトップコーチを育成する『エリート』、職業観・倫理観・社会的責任においてプロとしての意識醸成を図る『プロフェッショナル』、国際基準を踏まえた戦略・強化指導を行えるコーチを育成する『インターナショナル』、講師及び受講者間等双方による情報交換を行う『インタラクティブ』、競技の枠を超えた交流・連携を図る『チームジャパン』の5つが挙げられています。

ハンドボール競技というカテゴリーのみではなく、全てのオリンピック競技から、各協会や連盟を代表して受講出来る講習で、味の素ナショナルトレーニングセンター（NTC）を中心に6月と10月の計8週間毎週月曜日～木曜日までの平日を使い、毎年約25名が受講しています。

講義内容は、コーチングからは「コーチング論」、「運動観察」、「キャリアコーチング等」、マネジメントからは「マネジメント論」、「スポーツ情報戦略」、「医・科学サポート論」、「メディア論」等、コミュニケーションからは「プレデンテーション」、「言語技術」、「ディベート」等、他にも野外での「チームビルディング活動」など多岐にわたり、様々な内容の講義が行われました。

JOC ナショナルコーチアカデミー概要

（以下、JOC資料より抜粋）

はじめに

ナショナルコーチアカデミーは、トップレベルの指導者が国際的な競技水準を踏まえたコーチング、戦略・戦術の構築や、スポーツ医・科学を活用した強化方法の立案・指導を行うために必要となる高度な専門的能力を習得するための制度であり、文部科学省策定のスポーツ振興基本計画に沿って立ちあげられたJOC GOLD PLANの長期的国際競技力向上計画の一環として、2008年（平成20年）より本格的に実施している。

1. 目的

“世界で戦える人材の育成” ～国際競技力向上を図るためのコーチ養成～

・ 強化コーチ・スタッフの質的向上及び再教育
・ 新たな人材の発掘、養成
→日本スポーツ界のシンクタンクとしての機能（人材・知識など）

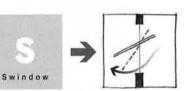
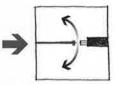
2. 位置づけ

JOC専任コーチングディレクターの認定を受けるための前提条件として導入、実施

3. 実施概念（コンセプト）

(1) 日本の代表としての品性・資質を兼ね備えた真の一流コーチを養成する。(elite)
(2) 職業観・倫理観・社会的責任において、専門家としての誇りを持つコーチを養成する。(professional)
(3) 日本としての戦い方を追求するとともに、「国際基準」を踏まえた戦略、強化指導を行うことができ国際舞台で活躍できるコーチを養成する。(international)
(4) 知識や情報の一方通行ではなく、受講者と講師、受講者間の双方向による情報交換を主体とする。また指導現場において選手及び指導者間との双方向を意識できる指導者を養成する。(interactive)
(5) 競技の枠を超えた交流・連携を通し、日本スポーツ界の発展を目指す。(Team JAPAN)

4. 受講対象者

各競技団体が推薦した下記の者及び本会が認める者
(1) JOC専任コーチングディレクター候補者
(2) 強化スタッフ
(3) その他希望者
※ (1) ～ (2) の該当者は、日本体育協会公認コーチ、上級コーチ資格ホルダー及び同等の知識・スキルを有すること。
※ (3) の該当者は、原則、日本体育協会公認コーチ、上級コーチ資格ホルダーであること。

5. 具体的なカリキュラム

単に知識を身に付ける場ではなく、実践的学問・ケーススタディの場

- どの競技種目にも共通して必要だと思われるカリキュラムを中心に構成する。
- 一方通行の講義形式ではなく、それぞれが講義に関わるものにしていく。それぞれの競技に関することは、ケーススタディとして検討する。
- 生理学、心理学、社会学等の基礎科目については、既に習得していること、もしくは十分な知識を持っていることを前提とし構成する。

カリキュラム（例）

コミュニケーション
- ロジカルコミュニケーション（①話し方、②論理的に思考、発言、③質問力）
- ディベート（①論理能力の鍛錬、②はっきりとした意思伝達）
- プレゼンテーション実習、等

高度競技コーチング
- コーチング論
- 運動観察・指導者講習会視察、等

高度競技マネジメント
- チームマネジメント
- 組織（競技団体等）マネジメント
- スポーツ行政
- スポーツビジネス
- メディア論
- ビジネスシミュレーション、等

スポーツ情報戦略・スポーツ情報の分析、伝達
- ゲーム分析／パフォーマンス評価

医・科学
- 医・科学サポートケーススタディ
- アンチ・ドーピング

その他・野外研修
- 武道体験
- 特別講演

6. 研修後について

(1) 各講義およびケーススタディ発表したものは、年度内にパブリッシュし、スポーツ界全体で共有する。→機関紙の発行
(2) 修了者の活動内容を追い、どのような形で日本スポーツ界および世界スポーツ界に貢献しているかを追跡調査する。
(3) リフレッシュ研修等を実施し、修了者の継続教育を行う。
(4) 4年に1度にカンファレンスの形でその成果（夏季・冬季）を発表する。

最後に

「学ぶことを辞めたら教えることを辞めなければならない。」

これはJOCナショナルコーチアカデミーで最初に教えられたことです。人を教えることは、自分を磨くことにつながります。今後もこの「ナショナルコーチアカデミー（NCA）」で学んだことを生かしながら、日本のスポーツ界の価値向上と発展に寄与していくつもりです。

JOCナショナルコーチアカデミーについて詳細は以下参照。
http://www.joc.or.jp/training/ntc/nationalacademy.html

ハンドボール選手のための食育 2

勝つために何ができるか。今日からスタートできることは何か。ハンドボールに関わる全ての方々と一緒に考え、実行して行くための食育連載第2回目は、「意識して食べること」をテーマにお伝えします。

1. 身体は食べた物で出来ている

皆さんは､普段どんなふうに食事をしているでしょうか。誰かが作ってくれる食事を当たり前のように食べる。おなかが空いたから、とりあえず何か食べる。価格の安い物や自分が好きな物を選んで食べる。様々な食生活の環境があるでしょう。

ハンドボールが強くなりたいと思うのは、皆さん同じ気持ちだと思います。勝つために必要な強い身体を作るには、食べることにも努力が必要です。どんなに練習を頑張っても、どんなにたくさん筋力トレーニングをしても、きちんと材料が入らなければ身体は作られません。私たちの身体は、自分がこれまでに食べた物で出来ているのです。競技力向上のために、まずは食生活を見直してみましょう。

2. 意識して食べることの大切さ

中高生男女を対象にNTSで実施したアンケート調査では、「食事をする時、栄養のことを意識して食べていますか？」という問いに対し、「意識している」と回答した選手は全体のわずか6%でした。これに、「どちらかといえば意識している」と回答した人数を合わせても約30%という結果となり、多くの選手は栄養のことを意識せずに食事をしていることがわかりました。最も意識が高かったのは、高校生男子でした。

また、日本体育協会で行われた食育に関するアンケート調査によると、栄養のバランスを考えて食べている選手は考えて食べていない選手よりも集中力や練習意欲が高く、また偏食をしない選手ほどケガをしにくいという結果が出ています。スポーツ選手は､健康で丈夫な身体が基本です。しかし、不規則な食生活や偏食など不十分な食事を続けていると、身体がうまく回復できず疲れが残りやすくなったり、練習や試合で良いパフォーマンスを発揮できなくなったりするのです。

毎日の食事でしっかりと栄養を摂取し、練習で競技技術を磨き、十分な睡眠をとって疲労回復を促す。この3つのサイクルによって強い身体が作られ、競技力向上へつながります。

3. 必要なエネルギー量の計算方法

成長期の皆さんにとって、1日どれくらいのエネルギーが必要なのでしょうか。計算値はあくまで推定であり、必要なエネルギー量は運動量や個人差などによって大きく変化しますが、おおよその目安を知ることが出来ます。自分の身体を意識する手がかりとして、例を参考に計算してみましょう。

基礎代謝量とは、安静時の必要最小限のエネルギー消費量を示します。成長期（1～17歳）では、身体活動に必要なエネルギーに加えて、組織合成に要するエネルギーと組織増加分のエネルギー（エネルギー蓄積量）を余分に摂取する必要があります。

①自分の体重から、基礎代謝量を算出

基礎代謝基準値（表1）×体重（kg）⇒**基礎代謝量**…A

表1　成長期の子どもの基礎代謝基準値（kcal/kg 体重 / 日）

年齢（歳）	基礎代謝基準値	
	男子	女子
6～7	44.3	41.9
8～9	40.8	38.3
10～11	37.4	34.8
12～14	31.0	29.6
15～17	27.0	25.3

②身体活動レベル（PAL）を確認…B

表2　身体活動レベル（PAL）

種類	競技名	PAL（毎日の練習時間別）		
		1時間	2時間	3時間
持久力系（軽い）	ジョギング（軽い)、水泳（ゆっくり)、軽いダンスなど	1.55	1.65	1.75
持久力系（激しい）	ジョギング（中等度)、水泳（クロール・平泳ぎ)、スキーなど	1.70	1.90	2.10
混合系［球技系］（軽い）	バレーボール、卓球、野球、ソフトボール、バドミントンなど	1.55	1.65	1.75
混合系［球技系］（激しい）	バスケットボール、テニス、サッカーなど	1.65	1.80	2.00
瞬発力系・筋力系	体操・陸上短距離、柔道、空手など	1.75	2.00	2.25

※練習時間は実際の活動時間

③成長のために必要なエネルギー蓄積量を確認…C

表3　成長期の子どもの1日あたりの組織増加分エネルギー蓄積量（kcal/日）

年齢（歳）	組織増加分エネルギー蓄積量	
	男子	女子
6～7	15	20
8～9	25	25
10～11	35	30
12～14	20	25
15～17	10	10

※平均的な体位にて算出した数値

④1日に必要なエネルギー量を計算

【計算式】A×B＋C＝**1日に必要なエネルギー量**

例：体重50kgの14歳の男子で、ハンドボールの練習を毎日2時間行っている場合
※PALは、混合系［球技系］（激しい）として算出した

自分にあてはめて
計算してみよう！

$$31.0 \times 50 = 1{,}550$$
$$1{,}550 \times 1.8 + 20 = \underline{2{,}810\text{kcal}}$$

消費したエネルギー量よりも摂取したエネルギー量が多ければ体重が増加、その反対に摂取したエネルギー量が不足していれば体重が減少します。体重に変化がないということは、エネルギー平衡を意味します。

ハンドボール競技では当たり負けしない身体を作るために、多くの選手にとって体重増加が必要とされます。「頑張ってたくさん食べているのに、なかなか体重が増えない。」というケースもしばしば見うけられます。これは、体重増加のために必要なエネルギー量を摂取できていないことが考えられ、必要なエネルギー量を確保することが前提となります。

4．どんな身体になりたいか

体重が増加しても、体重からだけでは、運動のために必要な筋肉を増やすことができたのか、または体脂肪として増えたのか判断できません。そのため身体組成の測定が必要になります。体脂肪を測定することで、筋肉や骨といった体脂肪以外の体重量を把握することが出来ます。体脂肪以外の体重のことを、「除脂肪体重」と言います。スポーツ選手にとっては、この除脂肪体重をいかに増量出来るかが重要なポイントになるのです。

（【参考】除脂肪体重＝体重×（100 －体脂肪率）÷100）

また、勝つための身体作りでは目標設定をします。例えば、「○年生の○月までに体重○ kg、体脂肪率を○％にする（除脂肪体重を○ kg にする）」というように、できるだけ具体的に数値化すると取り組みやすくなります。目標値は無理のない設定とし、達成できなければその都度修正します。長期・中期・短期の目標を決めて、達成のために今日から何ができるかを考えます。

そのためには、まず現状把握が必要です。定期的に身体組成の測定を行い、日々のエネルギー摂取量やトレーニング効果の評価に用いると良いでしょう。

体重や体脂肪率を把握しよう。
毎日測定できると Good ！

5．まとめ

目標とする強い身体を作るために、自分は「いつ」「何を」「どのように」食べれば良いのか？　その食べ物が自分の身体を作るどんな材料になり、競技にどのように活かされるのか？

食事はハンドボールの練習と同じように、毎日の積み重ねが大切です。初めは出来なかったことでも、何度も練習をして行くうちに出来るようになります。意識して食べることを継続して行けば、必ず身体は変わり、強さになります。

食事の基本形がそろっているか確認してみましょう

- ●主食：ご飯、パン、麺類など
- ●主菜：肉、魚、卵、大豆製品などを使った料理
- ●副菜：野菜、海藻、きのこなどを使った料理（2 品）
- ●乳製品：牛乳、ヨーグルト、チーズなど
- ●果物：季節のフルーツなど

●意識して食べるためのポイント●

運動と組み合わせて、材料となる食べ物をきちんと入れなければ身体は作られない。“ドカ食い“せず、よくかんで、しっかり消化吸収することで強い身体が作られる。体重測定を習慣づけて、さらなるパワーアップを目指そう！

日本ハンドボール学会第３回大会

第３回大会実行委員長
田中　守（福岡大学）

日本リーグプレーオフに合わせて開催していた学会大会を、昨年の２回大会から学会大会のみの開催とし、今大会から会場を東京理科大学神楽坂キャンパス森戸記念館に移して開催しました。

初日のシンポジウムでは、「1対1の攻防における個人戦術」をテーマに、まず世界トップレベルの選手を対象にしたゲーム分析結果を基にした1対1の場面における有効な攻撃および防御プレーについて、船木浩斗先生（中京大学）に紹介していただきました。続いて、1対1の突破とその阻止に関する戦術力を国際レベルにまで高めていった２名の元日本代表選手に登壇いただきました。1対1の突破のスペシャリストである冨本栄次先生（郡山女子大学付属高校）は、防御プレーヤーの守り方に応じたフェイントの使い分けやご自身がフェイントのコツをつかんでいった過程などを分かりやすく紹介してくださいました。その後、突破阻止のスペシャリストである青戸あかね先生（山陽高校）は、攻撃プレーヤーの選択肢を減らしていく防御プレーの考え方や相手にコンタクトするときのやり方、コツについて、口頭だけでなく実際に体を動かしながら熱く語ってくださいました。会場からは、パネリストのお二人に対して、「冨本さんと青戸さんが、もし試合で対戦することになったら、それぞれどのように攻撃／防御しますか？」、「選手の1対1の戦術力を高めるために実践されている指導のやり方は？」、「男女の体力差を考慮した指導のやり方についてアドバイスがほしい」といった質問がなされ、活発な議論が展開されました。コーチングの実践現場に活きる意見の飛び交う、実り多いシンポジウムでした。

２日目の基調講演は、本学会会長の大西武三先生（筑波大学名誉教授）が「日本のハンドボールの発展のために日本ハンドボール学会が取り組むべき研究や課題」をお話しくださいました。冒頭、「わたくしごとですが…」で始まったお話は、筑波大学退職後につくば市内の小学校７校を巡回し、筑波大学の学生とともに小学校の体育の授業でハンドボールを指導する内容でした。子供たちは、ゲームをしたくてたまらずゲームを通じてハンドボールの面白さを体感しており、このような取り組みから日本の頂点強化に繋げることの必要性、重要性を強調されました。その後の内容も、「温故知新」、ムササビシュートやバックパスの有効性など今でも活かされるプレーがたくさんあること、一貫指導のフィロソフィとアウトライン、デンマークで作成された「個人スキルトレーニングメニュー（金銀銅）」の日本版と「ポジション別金銀銅の必要性」、世界の技術・戦術分析など、多方面に亘る内容であるとともに非常に含蓄のある内容で、参加者が自然と引き込まれるような講演でした。日本ハンドボール協会専務理事経験者として、あらゆる観点から日本のハンドボールの普及・発展に取り組んでこられた先生ですが、まだやり足らないと感じるほど次世代の私たちに訴える内容でもありました。珍しく、講演時間を気にされていたのは、司会者としては嬉しく、しかし大変心苦しいほどの、まだまだお話しいただきたい講演でした。キーワードの「自立、個性、創造、適用、習得」すなわち「学んで、考えて、創る」は、とても印象的でした。

一般発表演題は、２日間で13演題となり、技術・戦術研究が多い中、ハンドボール医学や一貫指導システム研究、トレーニング環境調査など、新しい視点の研究が昨年からの特徴的となっています（学会ホームページ参照）。この中から学会大会賞が選考され、大西信三氏（筑波大学）の「ハンドボールプレーヤーにおける脛骨跳躍型疲労骨折の１例」、永野翔大氏（筑波大学大学院）の「ハンドボール競技における一貫指導プログラムの構築に関する基礎的研究」、吉兼練氏（筑波大学大学院）の「世界トップレベルの男子ハンドボール競技における速攻の発展傾向」が受賞されました。また、昨年末に刊行された「ハンドボールリサーチ第３巻」掲載論文の中から学会賞と学会奨励賞の表彰が、全発表終了後の総会において行われました。学会賞には、藤本元、山手就策、ネメシュ・ローランド、山田永子（筑波大学）各氏共著の「男子ハンドボール競技における5対6の数的不利な状況での攻撃について：学生レベルと世界レベルとを比較して」が、奨励賞には船木浩斗氏（中京大学）の「ハンドボールにおける1対1の突破阻止に関する動きのコツ：卓越した防御プレーヤーの語りを手がかりに」が選考されました。

３年目の学会員登録数が146名と昨年を12名上回り、会員層が年々着実に拡まってきています。今学会大会の参加者数も教室が満席となる盛況な学会となりました。大会実行委員として準備と運営にご尽力いただいた藤本元先生（筑波大学）、辻昇一先生（日本体育大学）、八尾泰寛先生（東京女子体育大学）、村松誠先生（駒澤大学）、市村志朗先生（東京理科大学）、学会事務局中心に準備と当日運営にご尽力いただいた筑波大学の會田宏先生、山田永子先生、筑波大学大学院生と東京理科大学学生の皆さん、多くのアドバイスをいただいた大西武三会長、平岡秀雄副会長、樫塚正一副会長、座長を務めていただいた北岡克彦先生（光仁会木島病院）、田村修治先生（東海大学）、齊藤慎太郎先生（大同大学）、そして大会を盛り上げて下さった参加者の皆さんに、誌面をお借りし厚く感謝と御礼を申し上げます。

【一般発表】

1）清水宣雄（国際武道大学）・東　俊介（大崎電気）
ハンドボール競技規則におけるステップに関する一考察：ドリブル後の第1歩は0か1か

2）山下純平（愛知教育大学）
ハンドボールにおける中学部活動の練習環境及び指導内容に関する基礎研究：全国大会に出場した指導者へのアンケートを基に

3）永野翔大（筑波大学大学院）・會田　宏（筑波大学）
ハンドボール競技における一貫指導プログラムの構築に関する基礎的研究

4）貝沼圭吾（日本ハンドボール協会医事委員会・国立病院機構三重病院）
女子ユースアジ選手権で施行した尿比重による体内水分量評価

5）大西信三・鎌田浩史（筑波大学整形外科）・田中健太（筑波大学大学院）・山崎正志（筑波大学）
ハンドボールプレーヤーにおける脛骨跳躍型疲労骨折の１例

6）佐久間克彦（熊本赤十字病院）・井本光次郎（関東労災病院）・陣上修一（熊本保健科学大学）
熊本県におけるハンドボールメディカルサポーター育成講習会について

7）桑原康平（仙台大学）
ハンドボール競技におけるポストシュートに対する有効なゴールキーピングに関する研究：熟練者と非熟練者の比較から

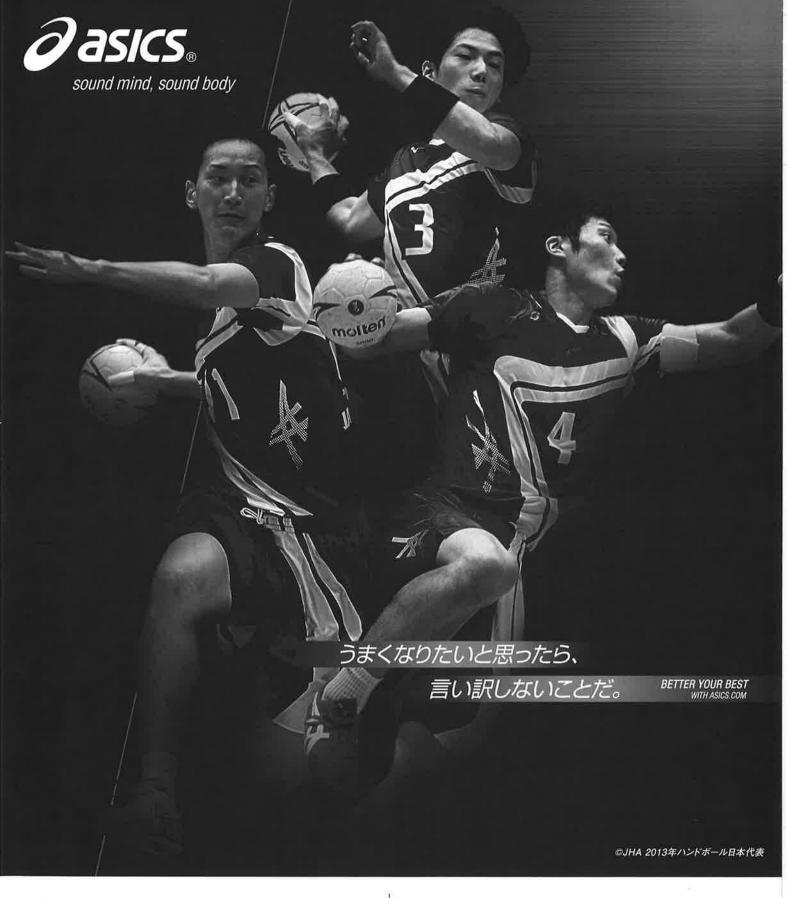
8）下拂　翔（筑波大学研究生）・山下純平（愛知教育大学）・山田永子（筑波大学）
ハンドボールにおけるゴールキーパーの「詰め」に関する一考察：実業団選手へのインタビューを基にして

9）佐藤奏吉（筑波大学大学院）・藤本　元・會田　宏（筑波大学）
ハンドボールにおける左サイドのシュートプレーに関する一考察：世界レベル、日本レベル、学生レベルの男子選手を対象に

10）吉田洋志（仙台大学大学院）・森本吉謙（仙台大学）
ハンドボールにおけるディスタンスシュートの分析：国際レベルと学生レベルを比較して

11）横山克人・栗山雅倫（東海大学）
ハンドボール競技における縦断的なゲーム分析：女子世界選手権を対象として

12）吉兼　練（筑波大学大学院）・藤本　元・會田　宏（筑波大学）
世界トップレベルの男子ハンドボール競技における速攻の発展傾向

13）西里喜光（福岡大学大学院）・伊藤寿浩・田中　守（福岡大学）
方向変換走能力向上を目的としたバウンディングトレーニングの有効性

ICC（international coaching course）に参加して

ハンガリー体育大学・筑波大学大学院　井上元輝

秋田県立湯沢高等学校を卒業後、筑波大学に進み、その後筑波大学大学院に進学しました。大学院２年目の前期を終えて休学し、ハンドボールのコーチングを学ぶために、ハンガリーの首都ブダペストに2013年７月から2015年６月まで留学をしています。

1. ICC受講のきっかけ

ハンガリーの首都ブダペストにある国立センメルウェイス大学（現：ハンガリー国立体育大学）に聴講生として留学しつつ、ブダペストハンドボールアカデミー（14～18歳）の女子チームのアシスタントコーチとしてコーチングを学んでいます。大学の授業は基本的にハンガリー語で行われていますが、こちらの指導教官に「英語で開講されるICC（International Coaching Course、国際コーチングコース）の中にハンドボールコーチ養成プログラムもあるから受講してみないか」と誘ってもらったのが受講のきっかけです。

2. 講習期間と概要、および費用について

ICCは、IOC（International Olympic Committee、国際オリンピック委員会）のオリンピック・ソリダリティープログラムの支援を受けて、世界中のコーチを育てることを目的とした３ヶ月間の集中的なコースです。このICCは春と秋の２回開講されていますが、基本的にハンドボールコースは秋に開講されています。ICCは1971年からの開講以来85ヶ国以上から、約1,500人が同コースを受講し修了しています。主に若手コーチたちに、英語で理論的、実践的、体系的な講義・実技講習を提供しています。コースのプログラムはスポーツ科学に関する共通科目の講義122時間と専門スポーツ種目の講習（講義・実技）180時間によって構成されています。

筆者は2014年３月17日から６月６日までにハンガリーのセンメルウェイス大学で開講されたICCのハンドボールコースを受講する機会を得て、修了証書を取得しました。講師は、Béla Fekete氏、Csaba Ökrös氏、Zoltan Marczinka氏らであり、いずれもEHF（ヨーロッパハンドボール連盟）マスターコーチの資格者でした。ハンドボール専攻の受講生は、筆者の他にオマーン人の男性１人とシンガポール人の女性１人であり、２人とも自国のハンドボール協会から派遣されていました。

費用は３ヶ月間の学費、生活費（家賃、光熱費、食費、交通費）込みで、日本円でだいたい90～100万円です。学生寮ではなく、一般的なアパートの部屋が割り当てられていて、食事は自炊や外食です。

2-1. スポーツ科学に関する共通科目について

ICCの一般的なスポーツ科学に関する授業科目には、「トレーニング学」「スポーツ生理学」「スポーツ医学」「ジェネラル・コンディショニング」「コーチングの原理と原則」「スポーツ社会学」「スポーツ心理学」「スポーツ栄養学」「人体生物学」「スポーツマネジメント」「研究方法について」「ハンガリーにおけるスポーツ教育」「ドーピングについて」がありました。時間数は多くはなかったので、実践現場においてすぐに応用できる内容で構成されていました。多くの科目に共通していたことは、計測できるものは徹底的に計測せよという考え方です。時間や距離、強度や負荷などを計測し、フィードバックし、そこから新たなトレーニング計画を立てることの重要性を再確認しました。また、体育・スポーツに関する共通科目は、コーチとしてのベースであり、必要条件であるということが強調されていました。スポーツ科学に関する知識は日進月歩でアップデートされているので、学び続ける姿勢が必要だと感じています。

2-2. ハンドボールの講習内容について

トレーニングの捉え方として、主に「トレーニング計画の立て方」「試合分析シートの活用方法」「競技レベルに応じた技術・戦術トレーニング」についての講習が行われました。１週間と１日ごとのトレーニングについて、ブダペストアカデミーチームの練習を例に紹介したいと思います。ハンガリーにあるほとんどのチームは、公式試合とは別に１回90分のトレーニングを１週間に７～10回程度行っています。１週間のトレーニングを見てみると、毎日異なるテーマのもとに練習が組まれ、毎回メニューも異なっていました。しかし、毎回のメニューが全て異なるというわけではなく、曜日ごとに類似したテーマが設定されていました。１回90分のトレーニングは、基本的に30分ずつの３つのパートで構成されていて、最初のパートはその日のテーマに必要な動きを含んだウォーミングアップを行い、真ん中のパートでは個人やグループでテーマに必要な技術を反復練習し、最後のパートでは状況判断が求められる攻防練習が行われていました。

攻撃のトレーニングを例に挙げると、始めはディフェンス人形を置いて、次は反応をするがファウルをしてこない防御プレーヤーを置いて、その次は活動的な防御プレーヤーを置いてというように段階的に技術・戦術トレーニングが組まれていました。また攻撃側にとって数的優位な状況で行われた後に数的同数の状況にするというように、プレーの判断・選択という側面から見ても段階的にトレーニングが組まれていました。

3. 受講中の生活

ICCのスケジュールは基本的に朝８時に始まり15時には終わります。その後はそれぞれの専門競技ごとに分かれて講習が行われます。月曜日、火曜日、木曜日の午前に80分の授業が３つあり、午後に１つあります。水曜日、金曜日はそれぞれの専門競技に応じて講義や実技があります。土曜日、日曜日は休養日だったり、ハンガリーの地方都市に出かけて観光をしたりして、ICCのメンバー間で親睦を深めます。筆者はこの基本授業に加えて、朝や夕方にクラブチームのアシスタントコーチとしてトレーニングに参加していました。

4. 日本での講習との違い

日本での指導者講習を受講した経験は、財団法人日本体育協会公認コーチ「ハンドボール」のみですが、ハンガリーにおける指導者養成講習との大きな違いは、実際に受講者が動くかどうかです。この動くには多くのことがあって、それはコーチとしてトレーニングを実際に作ること、選手として実際にプレーすること、レフェリーとして実際に試合を吹くことが含まれています。

これはICCではなく、ハンガリーの中級ライセンスコースでの例ですが、20人の受講生がいるとしたら、10人が講師の指導のもと実際に技術・戦術指導を受け、残りの10人がそれを観察・ノートします。中間テストでは、「砂の入ったペットボトルを使ったウォーミングアップ」「ラダーを使ったウォーミングアップ」「ボールを使ったウォーミングアップ」「グループ戦術を使ったオフェン

ストレーニング」「技術指導を伴ったシュートトレーニング」などの条件が設定され、1人がコーチ役をして残りの9人がプレーヤー役をし、また残りの10人が観察・ノートします。さらに2人がレフェリーをして、残りの18人で5分間のミニゲームをします。参加している年齢は様々で、中には1部リーグで活躍する現役選手もいました。

最終試験では、ユース年代の選手15人に対して、その場で知らされるテーマに沿った15分間のトレーニングをする実技試験とルールや指導方法に関する面接の結果、ライセンスの合否が決まります。

5. 日本でも取り入れた方が良いと感じたこと

ハンガリーの練習始めのウォーミングアップでは、必ず補強運動が含まれています。その際、トレーニングの中では多くのモノが使われています。そのモノというのは、長いベンチ、ジャンプ台、ディフェンス人形、イス、コーン、ペットボトル、自転車のチューブ、スポンジ、ラダー、ゴム紐、ミニハードルなどです。単調になりがちであまり好まれないフィジカルのトレーニングに対して、様々なモノを使うことは必要だと感じました。なぜなら、多角的なアプローチができるから、より実戦に近い状況を作り出すことができるから、選手がトレーニングに対して飽きづらいからです。フィジカルを強化することによって怪我予防になりますし、筋力がついてくると技術取得がこれまでよりも容易になります。

シュートの基本はゴールの4角に撃ち分けることですが、ただ「上に撃て」とコーチは言うのではなく、ビブスだったり、ゴムバンドだったり、自転車チューブを設置して「この中に撃て」と指示します。この範囲をどんどん小さくしていって、最終的には何もなくても角に撃ち分けられるようにトレーニングをしています。またノーマークの状況、ディフェンスが少しずれた状態でのディスタンスシュートの練習は細かく設定されていてよく練習されている内容です。設定される条件としては、パスが来る方向（利き手側から・非利き手側から）、ステップの方法、スイングの方法、シュートコース、ゴールキーパーのフォームなどです。シュート1つをとってみると、日本よりも細かく場面が設定されていて、その場面に求められる技術練習が体系的に存在していると感じました。その結果、14～18歳の子を比較してみると、ハンガリー人の動きは日本人よりも遅いですが、シュートテクニックに関しては、多くの技を持っています。

戦術をトレーニングする際にも、段階をおってトレーニングします。始めは動かないイス、その次は反応してこないヒト、最後は反応してくるヒトを置きます。さらに選択肢もどんどん増やしていきます。始めはシューターとゴールキーパーとの1対0＋1の状況、その次はシュートブロックをするディフェンダーを置いた1対1＋1の状況、さらに次はそこにピヴォットを足した2対1＋1の状況という具合です。3対3＋1のトレーニングをするときでも、その日に練習した2、3個のきっかけから攻めるという条件があります。

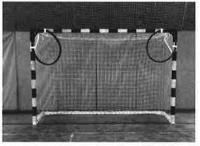
7. この種の講習会は、日本の若手指導者も積極的に受講した方がいいのか？

時間と費用を準備できるのであれば積極的に受講することを勧めたいです。ICCの期間中には土日を利用して何度かハンガリー1部リーグの試合を見学する機会がありました。また都合があえば、チャンピオンズリーグの試合を見に行くことも可能だと思います。

8. 日本にいて、この種の情報をゲットするには？

IHF（International Handball Federation、国際ハンドボール連盟）[http://www.ihf.info] やEHFのウェブサイト [http://www.eurohandball.com] をチェックすることが大切だと思います。またYouTubeではEHF CANというEHFのトップコーチが講師を務める講習会を配信しているチャンネル [https://www.youtube.com/user/EHFCANTeachingVideos?spfreload=10] があるので、ヨーロッパのトップコーチの指導の一例を日本にいながらにして見ることができます。

9. 今後の個人のハンドボール活動の夢や希望は？

海外のクラブで活躍することができるような選手を育てたいです。その中から、チャンピオンズリーグに出場するようなビッグクラブでプレーすることができるような選手が出てくれば、日本のレベルアップにも繋がるのではないだろうかという夢があります。

ゴール・ゴム紐

ゴール・ビブス

ゴール・自転車チューブ

【報告】JOCスポーツ指導者海外研修員

日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修員　高橋 豊樹

2013年8月から日本オリンピック委員会スポーツ指導者海外研修事業の研修員として、コーチのキャリアをデンマークで積ませて頂いております。この場をお借りして現地の生活や近況を御報告させて頂きたいと思います。

ハンドボールの生まれた国、デンマーク

デンマークはハンドボールの生まれた国で、ハンドボールが国技としての地位を占めるほど、デンマークの国民の間に普及しているスポーツです。デンマークは近年ハンドボールの国際大会でも優秀な成績を収めています。2012年のヨーロッパ選手権では優勝。11、13年の世界選手権ではともに準優勝、女子に至っても、1996年から2004年アテネオリンピックまでオリンピック3連覇と、男女共につねに世界のトップレベルでハンドボールをリードする国です。育成レベルでの活躍もめざましく、2011年世界男子ジュニア（U21）2011年、2013年世界男子ユース選手権（U19）では連覇と輝かしい成績を残しています。

大会	男子	女子	日本男子	日本女子
2010ヨーロッパ・アジア選手権	4位	4位	3位	4位
2011世界選手権	準優勝	4位	16位	14位
2012オリンピック	6位	9位	不出場	不出場
2012ヨーロッパ・アジア選手権	優勝	5位	4位	3位
2013世界選手権	準優勝	3位	不出場	14位
2014ヨーロッパ・アジア選手権	準優勝	?	9位	?
2015世界選手権	?	?	不出場	?

大会	デンマーク	日本男子
2009世界ジュニア男子	準優勝	不出場
2009世界ユース男子	5位	不出場
2011世界ジュニア男子	優勝	不出場
2011世界ユース男子	優勝	不出場
2013世界ジュニア男子	13位	不出場
2013世界ユース男子	優勝	17位
2015世界ジュニア男子	?	?
2015世界ユース男子	?	?

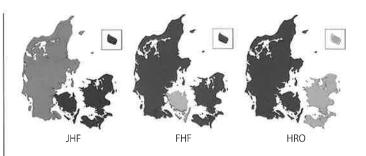
大会	デンマーク	日本女子
2010世界ジュニア女子	不出場	16位
2010世界ユース女子	6位	15位
2012世界ジュニア女子	9位	21位
2012世界ユース女子	優勝	8位
2014世界ジュニア女子	3位	17位
2014世界ユース女子	3位	14位
2016世界ジュニア女子	?	?
2016世界ユース女子	?	?

また、2013年12月にセルビアで開催された世界女子選手権では、準決勝に駒を進めた4チームのうち、セルビア以外のブラジル、ポーランド、デンマークの監督がデンマーク出身でした。

デンマークはコーチの育成に関しても定評があります。どうしてこのように多くの素晴らしい選手、コーチを輩出できるのか。そんなデンマークハンドボールのタレント育成哲学をひも解いていこうと思います。

「The Danish Way」
デンマークハンドボール協会のタレント育成

デンマークのハンドボールでは非常に多くの関係者が、デンマークハンドボールにおけるタレントの育成に関わっています。それの意味する事は、多くの関係者の協力によってタレントを発掘するために広い範囲でシェアを持っているということです。

デンマークハンドボール協会（DHF）、ユトランド半島ハンドボール協会（JHF）とその中の8つの地区、フュンハンドボール協会（FHF）のタレントセンター、東地域ハンドボール協会（HRØ）

におけるクラブチーム、コーチ、ボランティアの指導者や保護者（両親）のすべての関係者がタレントを発掘するためのインプットに貢献しています。

DHFはタレントをセレクションする際に、割当られた予算枠組みの範囲の中で可能な限り多くのタレントを選出したいと思っています。そのため、タレント発掘に携わる関係者間のコミュニケーションと協力は非常に重要なことです。

2008年、DHFはタレント発掘及び育成を更に促進するために「The Danish Way」という、DHFのタレント育成の基本方針となる枠組を一般に公開しました。しかしながら新しい傾向、新しい考え方、新しい問題が連続して出現するハンドボールのダイナミックな世界では、常に解説の改訂や拡張が必要になっているのも事実です。

そしてこの「The Danish Way」の公開によって少なくとも2つのニーズを叶えることになるのが当時のDHFの狙いでした。

「The Danish Way」公開による2つのニーズ

まず、第一に広く公開することでタレント育成の現場の中で「共通の言語」が生み出されることを容易にし、タレント育成に携わるすべての関係者との間の相互協力を促進させることです。共通の言語が生み出されることで重要な語彙や定義が提供され、言語的、文化的な違いを超えてプログラムの考案や新しいアイディアの創出などコーチングにおいて有益な協力の可能性がでてきます。

第二に、DHFのタレント育成に関わる情報や取り組みを「目に見える形」で公開することで、タレント達の毎日のトレーニングのために、地域、地区、タレントセンターにお

いてのコーチ同士の接近を刺激することでした。

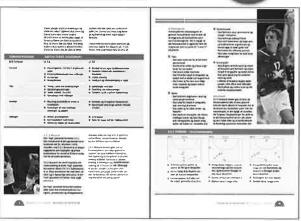
この２つのニーズにより、該当する年代の、タレント育成の目的と方向性についての明確な見解を示すだけでなく、タレント個人の能力やスキルを開花させるのに効果的なトレーニングメニューを掲示することにもつながります。

「The Danish Way」と「Age-related Training」の活用

DHF は The Danish Way の第一版（オリジナルバージョン）のリリース以降に「AT：Age-related Training（ALDERSRELATERET TRÆNING 13-18 ÅR)」と呼ばれる年代別のトレーニング概論を公開しました。AT は、13 ～ 18 歳の選手に対してのアプローチを説明しています。加齢に関するトレーニングの最新理論や哲学を公開することで、The Danish Way についての補足的な活動を行っています。このコンテンツはデンマークのエリートスポーツ機構（Danish Elite sports Organization、Team Denmark）によってサポートされていて、タレント育成者達の仕事のための出発点となる内容を含んでいます。したがって、DHF は今後発行されるであろう、The Danish Way の新しいバージョンでは AT の内容に補助的な役割になるようなものを採用する予定としています。The Danish Way の焦点は「デンマークハンドボール協会のタレント育成について」です。2008 年の The Danish Way オリジナルバージョン公開の頃は、国をあげてのタレント育成に関して DHF が独占的に行うものであったのに対し、現在は、多くの部分を地区や支部でのトレーニングにまで落とし込むことができ、タレント育成に関しての特定の部分だけを、DHF が主催の研修などでタレントを招集し、直接的に行うといった新しい形の The Danish Way を実現させています。

TEAM DANMARK

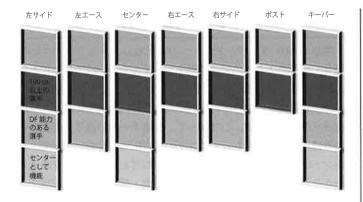
ALDERSRELATERET TRÆNING

Age-related Training の内容
- ハンドボールのスキル／戦術的な側面
- フィジカルトレーニング
- メンタルトレーニング
- コーチの役割
- 優れたタレント育成環境
- 食事と栄養

タレント育成の目的

選手が DHF タレントトレーニングにセレクションされている場合、選手のスキルの発達やポテンシャルを長い目で見ることを念頭に置く必要があります。タレントトレーニングの目的は、「若い才能を募集し、彼らが将来的に代表チームの選手になるために育成すること」です。したがって、代表チームの選手に必要とされる適正やスキルのトレーニングの両方に焦点をおいた上で、タレントの長期的な可能性が念頭に置かれてセレクションされるということです。そのため、タレント育成・発掘の役割を担当するコーチは、より長い期間にわたって選手の育成を経験し、タレントが将来的に直面するであろうニーズや課題を予測するために必要なハンドボールのコーチ歴を持っていることが必要とされます。さらに、タレントトレーニングだけに留まらず、クラブのトレーニングやクラブでの試合での状況を視察したり、把握できるように、各クラブ、各地区との緊密な対話が必要であることを意味します。過去の歴史を通して未来を予測することは難しく、とてもリスクのあることだと証明されています。それは DHF のタレントトレーニングシステムにもあてはまることです。しかし、現在そして将来のナショナルチームのプレーヤーが若い時期にタレントトレーニングに参加していたことは、このシステム自体は現在の所、成功しているといえます。タレント発掘やタレント育成に関わるすべての関係者の協力が良くかみ合うことによってこのタレント育成目的を確実なものとするべきで、そのためには誰もがタレントセレクションのガイドラインについて深く知っていることが最も重要なことです。

男子側の空いている棚

DHF のリクリート戦略の目標は明確です。将来的なゲームの発展に関係なく、ゲームの開発、将来的には世界選手権でトップの結果を達成できるように、男子代表チームのコーチは、常に、各ポジションにおいて多彩で幅広い範囲の選手を所有しておく必要があります。ここに水平方向に７つの棚の絵があったとします。その７つの箱が各ポジションの最高の選手です。そして垂直方向に問題になっている状況ごとに一定の数箱が配置され、そこにはことなるタイプの選手が配置されます。

例として左サイドの箱をとってみると、デンマークはこのポジションには速攻に対して抜群の選手、コーナーからボールを受ける状況で様々なシュートバリエーションを持つテクニカルな選手といった選手といった技術的に熟練した選手を開発する伝統があ

ります。例えて言うならば左サイドのタイプの棚は満たされているということができます。つまりこの事実は、現在、そして今後のA代表チームにとっても左サイドのポジションの棚は、多くの優秀な選手を確保できているということに繋がります。しかしながら、左サイド用の棚はそのようなスキルを持ち合わせながらも、ミドルエリアのDFやトップDF、マンツーマンDFに熟練した選手の棚は満たされていません。A代表の監督・コーチが、世界選手権やオリンピックなどの舞台で、より多くの戦術的な選択肢を持つためにも、5年後、10年後の男子ハンドボールにおいて、どんなタイプの選手が必要になるかを予測して、その枠を埋めるような選手を確保しなければいけないとしています。

そのため、DHFのタレント育成のシステムにおいては、こういった、空いている棚を埋めるタイプの選手を発掘することを非常に意識しています。特に、DHFでは、クラブ単位では育成が難しいと思われる、技術的・戦術的な才能に恵まれたセンターなど、各ポジションにおいて、これまでとは違ったタイプの選手のモデル（原型）を育成することに特別に取り組んでいます。そのため、デンマークでは、ナショナルチームのコーチの予測とは違う方向にハンドボールのトレンドが発展した場合でも、戦術的に才能をもったセンターと、テクニカルなサイドプレーヤーに関しては、不足することがないだろうとしています。また近年では、GKとしてニコラス・ランディン、エースのポジションのミケル・ハンセンといった、そのポジションにおいて今後のモデルとなるような選手を輩出してきました。

GK ニコラス・ランディン

デンマークの絶対的エース
ミケル・ハンセン

その上で、今現在欠いているが、将来的に必要になるだろうと予測している、相手の2枚目・3枚目に対してもより脅威を与えられるような、体格を併せ持つサイドプレーヤーや、ミドルゾーンを守ることができ、オフェンシブ・ディフェンシブの両方のフォーメーションでDFができるセンターなどの育成に対して積極的に動こうとしています。これらの例はDHFが将来的に重要になると予測するタイプの選手です。もちろん彼らは資格だけでなく力量を持っていることは最低条件です。世界選手権でのメダルを獲得するために常に、足りないタイプの選手や、今後必要になるであろうタイプの選手を予測し、そういった選手の発掘・育成に、デンマークのハンドボール界全体で戦略的に動いています。

タレントトレーニングとの出会い
地域、地区、タレントセンターにおけるトレーニング

デンマークハンドボール協会（DHF）は、ユトランド半島協会（JHF）、フュンハンドボール協会（FHF）、シェラン島のある東地域協会（HRØ）の3つの地域協会で構成されています。DHFのタレント育成システムとの最初の出会いは、JHFの中の8つの地区、FHFのタレントセンター、HRØを4つに分けた合計13地区のローカルレベルで起こります。

DHFのタレント育成システムにおいて非常に重要なトレーニングのことを「タレントトレーニング」と言います。DHFによる直接的なタレントトレーニングが始まるのは16歳からで、それが始まる2シーズン前（14～15歳）にこれら13の地区では、それぞれで「地区タレントトレーニング」の日程が組まれます。それぞれ地区タレントトレーニング用のコーチが任命され、だいたい月に1回程度実施されます。各地区で選手がセレクションされ、2シーズンの間地区タレントトレーニングを受けることになります。

その後、15歳のシーズンが終わる頃に選手たちは、デンマークの東西のグループでそれぞれ開かれる大会によって、DHFタレントトレーニングにセレクションされます。選手にとってこの13地区それぞれでのトレーニングが、DHFのタレントトレーニングへの入り口となるため、各地区のコーチとDHFのタレントコーチの連携・協力は非常に重要になります。そのため、DHFのタレントコーチは、年に2回程度、各地区でのトレーニングを視察し、各地区のコーチの同意のもと、トレーニングの一部をオーガナイズしたり、情報を伝達するためのミーティング、さらには、選手の親との話し合いなどに参加できるような体制がつくられています。 そして、トレーニングメニューや、選手のトレーニングやセレクションなどといったことに関して、各地区のコーチたちと話し合う場がもたれます。

毎年8月、DHFのタレントコーチは、来シーズンのためのガイドラインの手紙を全国の選手に送り、彼らにDHFタレントトレーニング参加の意思があることを確認します。これらの目的は、可能な限り多くの選手がDHFタレントトレーニングに参加するためです。したがって、13地区での2年間のトレーニングは、DHFのタレント育成において非常に重要な役割を担っています。

次回以降もデンマークハンドボール協会の方針を中心に現地の生活や近況を御報告させて頂きたいと思います。

スコアルーム①

第23回JOCジュニアオリンピックカップ2014

開催期日：2014年12月24日（水）～28日（日）
会場：福島県・県営あづま総合体育館・福島市国体記念体育館

【男　子】

▼予選Ａ組
京　都 23（12－10、11－9）19 岩　手
京　都 28（11－9、17－14）23 熊　本
熊　本 24（12－7、12－12）19 岩　手

▼予選Ｂ組
愛　知 25（13－6、12－7）13 福　井
愛　知 24（14－9、10－6）15 埼　玉
埼　玉 24（14－11、10－11）22 福　井

▼予選Ｃ組
福　島 18（8－2、10－8）10 愛　媛
福　島 22（9－8、13－11）19 北海道
北海道 23（11－8、12－9）17 愛　媛

▼予選Ｄ組
山　口 33（14－9、19－11）20 千　葉
山　口 29（17－8、12－10）18 福　岡
福　岡 27（13－14、14－11）25 千　葉

▼予選Ｅ組
沖　縄 26（17－13、9－12）25 兵　庫
沖　縄 30（15－12、15－12）24 神奈川
神奈川 28（12－14、16－8）22 兵　庫

▼予選Ｆ組
富　山 32（13－4、19－13）17 宮　城
富　山 29（15－10、14－14）24 茨　城
茨　城 27（8－9、19－7）16 宮　城

▼予選Ｇ組
岐　阜 26（14－12、12－13）25 香　川
岐　阜 27（12－10、15－13）23 宮　崎
香　川 27（15－9、12－13）22 宮　崎

▼予選Ｈ組
東　京 37（21－15、16－15）30 広　島
東　京 36（16－5、20－8）13 大　阪
広　島 23（9－11、14－11）22 大　阪

▼準々決勝
愛　知 25（11－10、14－5）15 京　都
山　口 21（9－7、12－8）15 福　島
富　山 28（11－11、17－11）22 沖　縄
岐　阜 30（17－15、13－13）28 東　京

▼準決勝
愛　知 21（10－8、4－6）17 山　口
（3-1 延長 4-2）
岐　阜 30（12－10、18－12）22 富　山

▼決　勝
愛　知 28（18－13、10－13）26 岐　阜

【女　子】

▼予選ａ組
沖　縄 27（16－5、11－12）17 山　梨
沖　縄 24（12－7、12－11）18 大　阪
大　阪 26（12－11、14－6）17 山　梨

▼予選ｂ組
福　井 23（11－6、12－9）15 三　重
福　井 34（18－3、16－2）5 福　島
三　重 18（7－6、11－4）10 福　島

▼予選ｃ組
茨　城 36（17－4、19－2）6 秋　田
茨　城 33（21－7、12－8）15 兵　庫
秋　田 28（16－11、12－16）27 兵　庫

▼予選ｄ組
岡　山 24（12－4、12－10）14 愛　媛
岡　山 25（12－6、13－6）12 熊　本
愛　媛 27（15－6、12－13）19 熊　本

▼予選ｅ組
京　都 32（17－15、15－15）30 東　京
京　都 32（15－7、17－6）13 岐　阜
東　京 27（15－0、12－5）5 岐　阜

▼予選ｆ組
大　分 39（21－4、18－6）10 北海道
大　分 37（18－8、19－8）16 山　形
山　形 28（12－10、16－8）18 北海道

▼予選ｇ組
愛　知 26（13－6、13－9）15 岩　手
愛　知 19（9－6、10－4）10 福　岡
福　岡 19（5－7、14－5）12 岩　手

▼予選ｈ組
山　口 30（15－10、15－13）23 石　川
山　口 23（10－9、13－8）17 埼　玉
石　川 16（9－7、7－6）13 埼　玉

▼準々決勝
沖　縄 26（13－9、13－13）22 福　井
茨　城 27（15－11、12－8）19 岡　山
大　分 26（13－7、13－11）18 京　都
山　口 22（9－11、13－6）17 愛　知

▼準決勝
茨　城 21（11－9、10－10）19 沖　縄
山　口 25（13－7、12－13）20 大　分

▼決　勝
茨　城 22（14－9、8－12）21 山　口

スコアルーム②

全日本社会人ハンドボールチャレンジ2015

開催期日：2015年2月6日（金）～8日（日）
会場：岐阜県・ヒラヤマアリーナ

【男　子】

▼１回戦
豊田自動織機 31（15－17、12－10）29 同朋クラブ
（4　7mTC　2）
ブラザー工業 25（9－7、16－12）19 ＭＨＣ
Toyama選抜 36（18－9、18－9）18 マツダ
甲府クラブ 36（18－14、18－16）30 東ソー
各務原市HCキャロット 24（11－6、13－13）19 大阪ガス
大同クラブ 30（14－11、10－13）29 ＨＣ岩手
（6　7mTC　5）
金沢市役所 24（11－6、13－10）16 日本ゼオン

▼２回戦
北陸電力 45（19－12、26－4）16 豊田自動織機
日新製鋼 25（13－11、12－7）18 高知クラブ
トヨタ自動車 29（16－7、13－14）21 ブラザー工業
新日鐵住金名古屋 20（9－5、8－12）19 Toyama選抜
（3　7mTC　2）
ＥＨＣ 32（11－14、17－14）31 甲府クラブ
（4　7mTC　3）
八光自動車工業 24（12－6、12－13）19 各務原市HCキャロット
大同クラブ 23（13－3、10－4）7 警視庁
ＨＣ岐阜 34（15－14、19－11）25 金沢市役所

▼敗者戦
東ソー 31（14－13、17－13）26 金沢市役所
警視庁 23（12－7、11－13）20 大阪ガス
ＨＣ岩手 48（26－3、22－12）15 日本ゼオン
高知クラブ 43（22－8、21－14）22 ＭＨＣ
Toyama選抜 35（15－9、20－9）18 同朋クラブ
甲府クラブ 48（24－10、24－14）24 豊田自動織機
各務原市HCキャロット 25（12－11、13－10）21 ブラザー工業
ＨＣ岩手 47（25－7、22－10）17 マツダ

▼準々決勝
北陸電力 32（16－13、16－10）23 日新製鋼
トヨタ自動車 28（12－6、16－11）17 新日鐵住金名古屋
ＥＨＣ 23（11－7、12－9）16 八光自動車
ＨＣ岐阜 32（17－12、15－12）24 大同クラブ

▼準々決勝敗者戦
大同クラブ 33（14－6、19－7）13 新日鐵住金名古屋
八光自動車 27（12－12、15－10）22 日新製鋼

▼準決勝
北陸電力 30（16－9、14－16）25 トヨタ自動車
ＨＣ岐阜 28（12－5、16－12）17 ＥＨＣ

▼３位決定戦
ＥＨＣ 22（7－13、15－6）19 トヨタ自動車

▼決　勝
北陸電力 28（10－5、18－17）22 ＨＣ岐阜

【女　子】

▼リーグ１回戦
ナデシコクラブ 22（11－12、11－10）22 ＨＣ福井
愛媛選抜 26（14－10、12－13）23 ナデシコクラブ
ＨＣ福井 23（14－8、9－5）13 愛媛選抜

▼リーグ２回戦
ナデシコクラブ 24（11－11、13－9）20 愛媛選抜
ＨＣ福井 23（13－10、10－9）19 愛媛選抜
ＨＣ福井 25（10－2、15－6）8 ナデシコクラブ

頂点をめざす すべてのアスリートへ。

原寸大：W45mm×D17mm×H70mm

2チャンネル同時出力で さらに強力サポート。

もっと速く、もっと強く、昨日の自分を超えるために常に限界の先をめざすアスリートたち。
2チャンネル出力になって進化したポータブル低周波治療器は
損傷した筋肉により効果的に働きかけ、場所を選ばずにいつでも自分の体をケアすることができます。
世界のスポーツの舞台を支えるITOのポータブル低周波治療器が
極限で戦うアスリートのコンディショニングをさらに強力サポートします。

※医科向けの医療機器のため、専門家の指導のもとに使用してください

60g 超軽量

本体重量わずか60g（充電池含む）、サイズも極小。ITOの技術が、今までになかった超軽量・コンパクトな低周波治療器を実現しました。

12時間 連続使用

リチウムイオンバッテリーにより、最大12時間の連続使用が可能。この小ささで、スタミナも一流です。

3つの治療モード COMB / CARE / PAIN 鎮痛・治癒

● COMB〈鎮痛+治癒〉Allタイムケア
トレーニングを終えた全てのアスリートに効果的な、鎮痛と治癒を組み合わせたケアモードです。

● CARE〈治癒〉OFFタイムケア
移動中や休憩中などの体を休めている時にも、トレーニングで損傷した筋組織の治癒を促進します。

● PAIN〈鎮痛〉ONタイムケア
トレーニング中など、現場で起こった捻挫や筋肉・関節の痛みといった急なアクシデントに有効です。

公益財団法人日本ハンドボール協会

『2019・2020 強化特別支援金』について

2015 年度登録より、2020 年度まで、個人登録料に『2019・2020 強化特別支援金』として 500 円を加算した金額が登録料となります。

日本ハンドボール協会は、「2019 年、熊本で開催される女子世界選手権ではメダル獲得、男子世界選手権では上位入賞。2020 年東京オリンピック・パラリンピックでは、男女ともメダル獲得。」を目標とし、代表のみならずターゲットエイジの更なる強化を推進いたします。目標達成には、尋常でない努力が必要であり、日本ハンドボール界すべての力を結集して取組む必要があります。

◆目標達成に向けての取り組み◆

1）国内合宿の充実
2）海外拠点を中心した長期海外合宿および国際大会への参加
3）外国人スタッフの採用
4）チームスタッフ充実
（コーチ、トレーナー、ドクター、分析、庶務等）
5）2019 世界選手権、国際大会の国内開催
6）事務スタッフの増強（国際、2019・2020 担当等）

上記取り組みには、現在の事業予算とは別に概算で約２億５千万円／年の費用が掛かります。掛かる費用の資金を捻出するため、日本ハンドボール協会としても、これまで以上にマーケティング収入の拡大を図るよう努めて参りますが、日本のハンドボールに関わるすべての方々にも力になっていただきたく、『2019・2020 強化特別支援金』を設けさせていただきました。（この『2019・2020 強化特別支援金』により５千万円の増収になります。）
ひとりひとりの力を結集し、チームジャパンとして目標達成を目指します。

がんばれハンドボール20万人会「サポート会員」1・2月入会・継続会員

【岩手】多田和生【群馬】高橋　潔【埼玉】辻　幸志、寺尾嗣子、辻　七海【千葉】金牧　稔、窪田　優【東京】伊東　卓、田村正一、田村裕子、荘林康次、三善信明、堀江成典【神奈川】相原康宏、岡本　大【長野】後藤政俊【新潟】遠藤正伸【富山】松浦良一、松浦雅恵【石川】寺垣俊彦【福井】山崎碧翔【静岡】坂東廣一【愛知】筒井理絵、安永　光宏、山本淳子、林　薫、林　ひろみ、宮地光男【三重】山本文男【京都】廣瀬佳代【奈良】木村加代、木村和正【広島】田中友紀【熊本】若杉和男【鹿児島】濱田直美

【４月の行事予定】

【会議】……………………………………………………
4月11日(土)　常務理事会

【大会】……………………………………………………
4月16日(木)～19日(日)
第12回東アジアクラブ選手権（男・女）（大分県・別府市）

HAND BALL CONTENTS Mar.Apr.

For the real game

「プレーヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」
私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに
世界に類のない、ボールとスポーツエキップメント・メーカーとして
常に完璧な製品づくりを目指しています。

株式会社 モルテン 東京都墨田区横川五丁目5-7

www.molten.co.jp

（公財）日本ハンドボール協会編 『ハンドボール』 第五五〇号
平成二十七年三月二十六日印刷
平成二十七年四月一日発行
東京都渋谷区神南一―一―一
電話 代表〇三―三四八一―二三六二
振替 〇〇一二〇―七―一〇二九三
編集兼発行人 川上憲太
定価 年間三三〇〇円